molten®
From the Inside Out

電動式介護ベッド

IMPRESS

active safety bed

取扱説明書

安全にご使用いただくために

必ず医師や看護師などの専門員とご相談の上ご使用ください。

この度は当社製品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。ご使用の前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになった後もいつでも見られる場所に大切に保管してください。ご本人の健康状態や床ずれが変化した場合には医師や看護師などの専門員に相談し、適切な処置を受けてください。

安全上のご注意 必ずお守りください

●ご本人や他の方への危害、財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。
取扱説明書に表示されている記号および言葉は、表示内容を無視した誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次のような表示区分で表しています。

⚠ 警告：死亡または重傷などを負う可能性がある場合。

⚠ 注意：障害を負う可能性または物的損害を発生させる可能性がある場合。

注意：本製品の故障を防止するための注意事項や、より快適にご使用いただくためのアドバイスが書かれていることを意味します。

●お守りいただく内容の種類を次の表示で区分して表しています。

⃠ この絵表示は、してはいけない「禁止」の意味です。

(!) この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の意味です。

目　次

○注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P02
○各部名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P07
○梱包形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P08
○機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P09
○リモコン操作方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11
○長さ・高さ設定変更方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12
○設置場所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P14
○組み立て方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P15
○点検項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P30
○付属品の適合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P31
○マットレスの適合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P32
○サイドレールの取り付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・P34
○ひざ上げ連動の解除方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・P35
○緊急時の背下げ方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P36
○背上げのもどし方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P37
○組み立て後の移動・高さ設定変更・・・・・・・P38
○分解方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P39
○お手入れ方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P45
○保管方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P45
○このようなときには・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P46
○仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P48
○介護リフト・サイドテーブル使用時の注意点・・・P49
○保証書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P50

注意事項

ご使用の前に説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後もいつでも見られる場所に大切に保管してください。
ご本人の健康状態や体調が変化した場合には、医師や看護師などの専門員に相談し、適切な処置を受けてください。

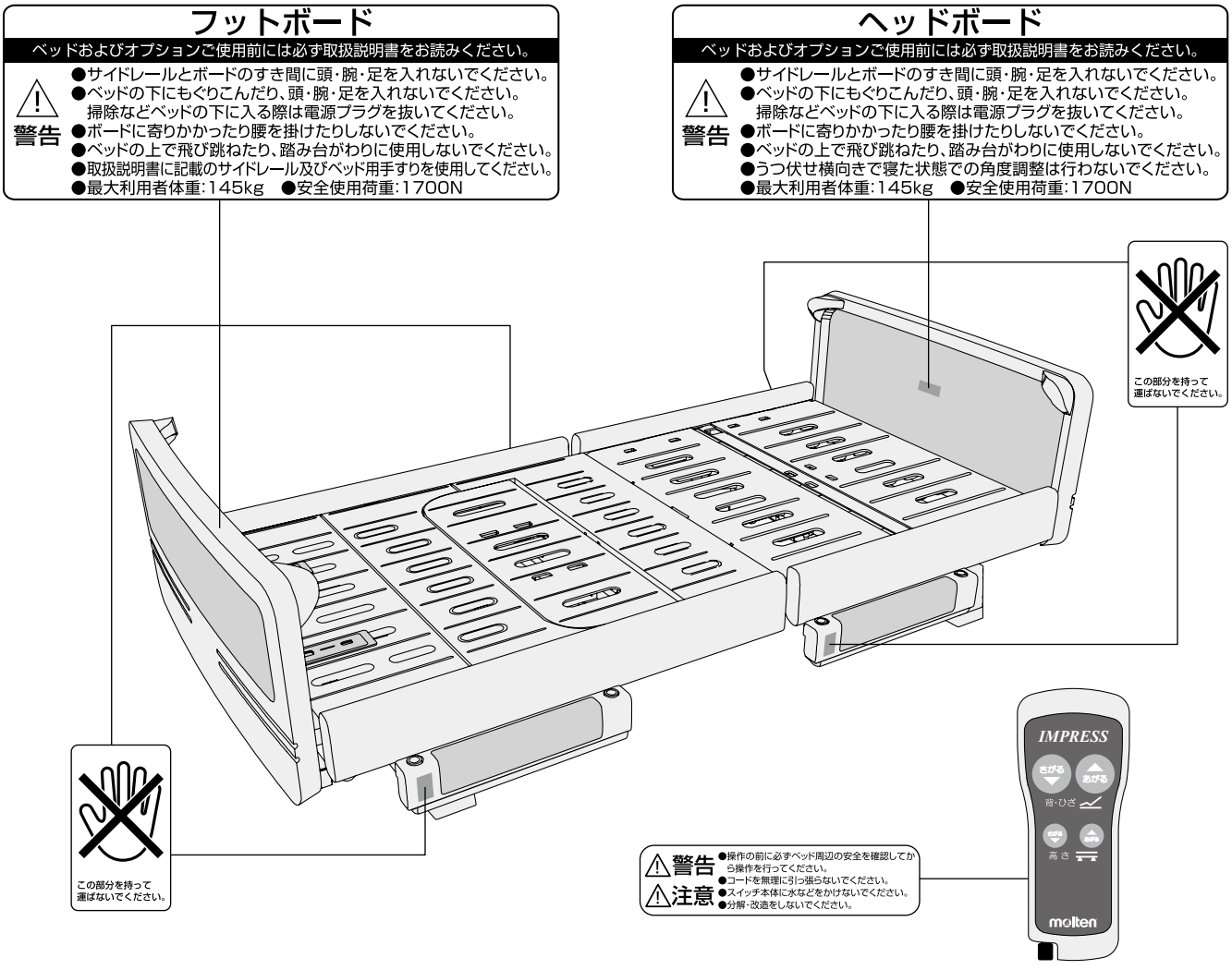
●ご本人や他の方への危害、財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。
取扱説明書に表示されている記号および言葉は、表示内容を無視した誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次のような表示区分で表しています。

⚠ 警告：死亡または重傷などを負う可能性がある場合。

⚠ 注意：障害を負う可能性または物的損害を発生させる可能性がある場合。

注意：本機の故障を防止するための注意事項や、より快適にご使用していただくための
アドバイスが書かれていることを意味します。

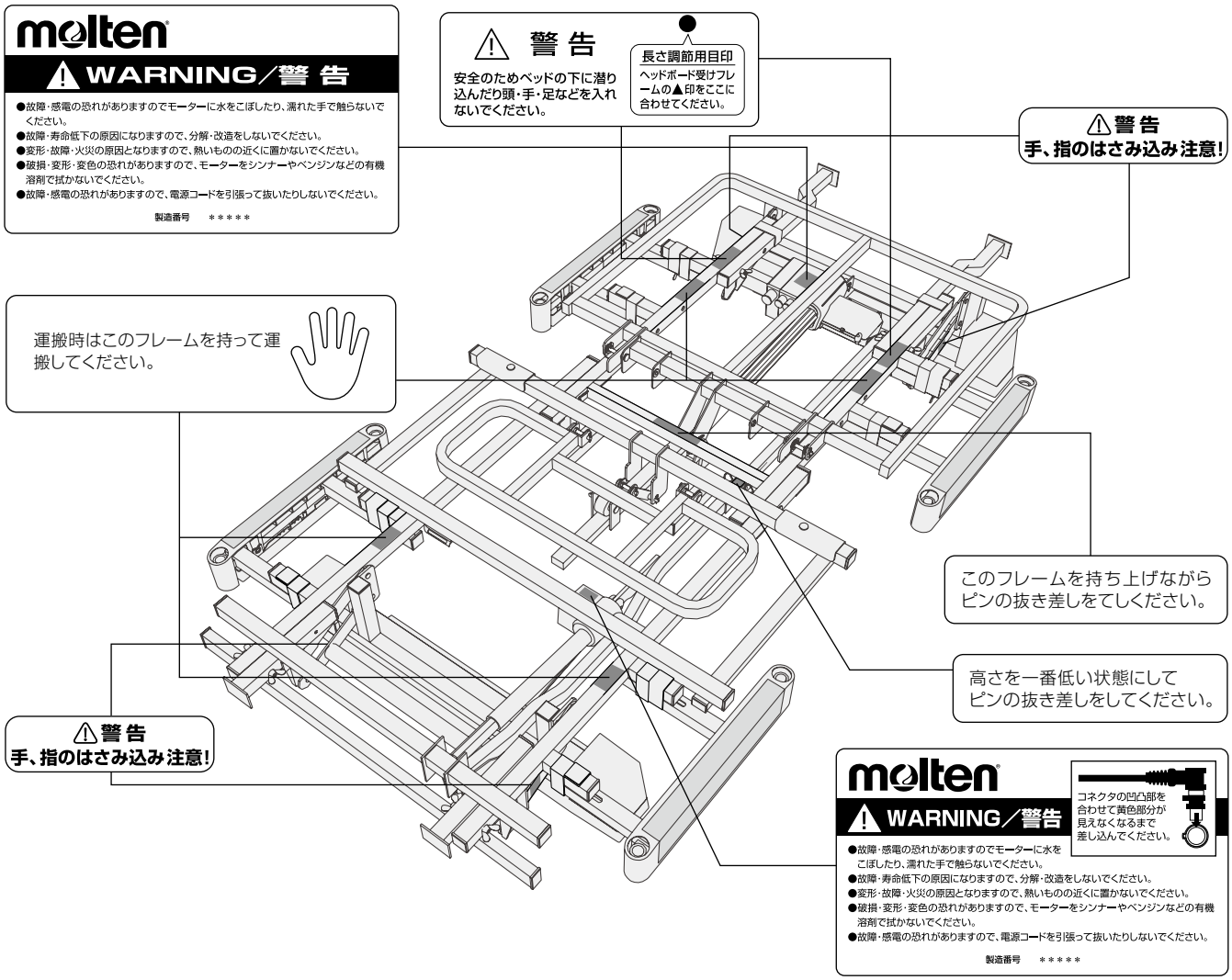
●注意シール位置



●お守りいただく内容の種類を次の表示で区分して表しています。

⃠ **この絵表示は、してはいけない「禁止」の意味です。**

(!) **この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の意味です。**



⚠ 警告

●転落・転倒の恐れがある方は安全のためサイドレールをご使用ください。

転落・転倒の恐れがある場合、必ずサイドレールや手すりをご使用ください。
それでもすき間から転落する可能性がある場合は、ベッドを低くするか、クッション材を床面に敷いてください。
また、サイドレールや手すりのすき間に頭・腕・足などが入らないように注意してください。

●手すりやサイドレール使用時もベッドからの転落に十分注意してください。

サイドレールとサイドレールのすき間から落下したり、サイドレールの上から身を乗りだして落下し、ケガをする恐れがあります。
寝返り、起き上がり、立ち上がりは十分注意して行ってください。
それでもすき間から転落する可能性がある場合は、ベッドを低くするか、クッション材を床面に敷いてください。

●サイドレールのすき間に頭や首が入らないように十分注意してください。

サイドレールのすき間に頭や首が入らないようにしてください。
頭や首がすき間に入ると抜けなくなり、ケガをする恐れがあります。

●手すりの外には頭・腕・足などを出さないでください。

操作中にベッドの下に手をはさんだり、頭・腕・足などを手すりにはさみ、抜けなくなる危険があります。
特に体位を自分で保持できない方は十分注意してください。

●周辺機器とのすき間に十分注意してください。

壁際や機器周辺に設置する場合、それらとのすき間や周辺にある家具などとの距離（すき間）には十分注意してください。
（P14参照）
手すりなどの周辺機器を設置する場合には、設置する周辺機器の取扱説明書にしたがい、すき間に十分注意して設置してください。

●ベッドは正しい向きでご使用ください。

ベッドの頭側、足元側の向きを間違えて使用すると、背上げの場合、無理な姿勢となりケガをする恐れがあります。
また、うつ伏せや横向きの状態で角度調節は行わないでください。関節を逆に曲げることになり、ケガをする恐れがあります。

●安全のため、ベッドの下に潜り込んだり、頭・腕・足などを入れないでください。

ベッドの可動部分やフレームなどの間にはさまれてケガや事故の原因となります。
また、ベッドを操作する方はベッドから頭・腕・足などが出ていないか、ベッドの下に人・物がないか、周りに障害物などがないかを確認して操作を行ってください。

●圧迫事故防止センサーは事故を予防するための補助装置です。

圧迫事故防止センサーだけでは事故をすべて防ぐことはできません。
ベッドを操作するときは、ベッドから頭・腕・足などが出ていないか、ベッドの下に人・物がないかを確認して操作を行ってください。
また、センサーが正しく作動するのを日常点検で確認してください。

●リモコン操作は操作を理解できる方が行ってください。

お子様や操作を理解できないと思われる方（認知症の方など）が一人でリモコンに触れる可能性がある場合には（介護する方が外出されるときなど）、電源プラグをその都度抜いて誤操作による事故を未然に防いでください。
また、ベッドを操作する方および介護される方は必ず、リモコンの操作方法を理解した上でご使用ください。

●手すりは必ず固定してください。

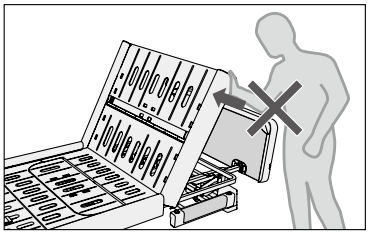
手すりが固定されていないと、つかまったときに転倒・転落し、ケガをする恐れがありますので、しっかりと固定してください。

●ベッド操作中はベッドから頭・腕・足などを出さないでください。

ベッドの可動部やフレームなどにはさまれてケガや事故の原因となります。

●背上げしたときにヘッドパネルに寄りかからないください。

背上げしたときにヘッドパネルに寄りかかると、ヘッドパネルが外れたり、背上げが動いてケガをする恐れがあります。



●掃除などベッドの下に入る場合には電源プラグを抜いてください。

リモコンの誤操作などによりケガをする恐れがあります。

注意事項

⚠ 警告

●ベッドの上に立ち上がったり、踏み台がわりに使用しないでください。
ベッドから落下、または転倒してケガをする恐れがあります。

●ベッドの上で飛び跳ねないでください。
ベッドの上で飛び跳ねるとケガや故障の原因となります。特にお子様にはご注意ください。
また、背上げ中に飛び跳ねた衝撃で緊急停止することがあります。

●電源プラグは持って抜いてください。
電源コードのみを持って引き抜くと、コードが傷んで感電する恐れがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
ショートして感電･故障の恐れがあります。

●電源プラグにホコリを付着させないでください。
電源プラグの表面にホコリが付着している場合には、乾いた布などでよく拭き取ってください。
電源プラグの表面にホコリが付着していると、発火する恐れがあります。

●電源コード類をフレームなどにはさまないように注意してください。
コードが傷むことで漏電し、感電する恐れがあります。またコードが断線し、ベッドが動かなくなる恐れがあります。

●水などをこぼさないでください。
アクチュエーターやリモコンに、水やジュースなどの液体をこぼさないでください。同様に、圧迫事故防止センサーやセンサー用コードに水やジュースなどの液体をこぼさないでください。液体がかかってしまった場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

●お客様による修理･改造はしないでください。
故障や異常動作の原因となり、ケガをする恐れがあります。

●本来の目的以外に使用しないでください。
本来の目的以外に使用すると、ベッドの破損や思わぬケガをする恐れがあります。

●本製品は日本国内専用です。
海外では使用できません。

⚠ 警告

電源タップ（サービスコンセント）のお取り扱いについて

●当社指定の物以外は使用しないでください。

●合計1500W以下で使用してください。

●ぬれた手で触ったり、水のかかるところでは使用しないでください。

●ホコリや湿気の多いところでは、プラグを長期間差し込んだままにしないでください。
定期的にプラグ面や差し込み刃面の掃除をしてください。

●湿度や湿気の高い場所（暖房器具、加湿器など）では絶対に使用しないでください。

●洗剤や殺虫剤などはかけないでください。

●医療機器は接続しないでください。

⚠ 注意

●二人以上で使用しないでください。
ベッドは一人用の設計になっています。二人以上で使用すると、ケガやベッドの破損の恐れがあります。

●最大利用者体重を守ってください。
最大利用者体重（145kg）を超えて使用すると、ケガやベッドの破損の恐れがあります。

⚠ 注意

●背上げしているボトムに立ち上がったり座ったりしないでください。
背上げの支持部に大きな力がかかり、変形、破損、故障の原因となります。

●ヘッド・フットボードは必ず固定フックで固定してください。
固定用フックを閉め、固定してください。
ボードの取り付けが不完全な場合、不意に外れ、転倒などによるケガの恐れがあります。

●リモコンを傷つけないでください。
ショートによる感電や誤動作の恐れがあります。

●リモコンは所定の位置に置いてください。
ベッド上に置くと肘や手などで押してしまい、誤動作を招く恐れがあります。

●長期間使わないときは電源プラグを抜いてください。
長期間ご使用にならないときは誤動作などを防ぐため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●有機溶剤やスプレータイプの殺虫剤などをベッドに直接噴射しないでください。
シンナー、ベンジンなどの有機溶剤や殺虫剤に含まれる溶剤によってベッドが破損・変色・溶解する恐れがあります。
また、破損・溶解した部分で思わぬケガをする恐れがあります。

●指定以外の製品とは組み合わせないでください。
指定以外の製品(手すり・サイドレールなど)と組み合わせると、体がはさまれケガをしたり、ベッドに負担をかけ故障の原因となることがありますので指定製品以外は使用しないでください。

●治療中の方は医師に相談してください。
現在治療中の方は、ベッドの操作が症状を悪化させる可能性があります。
ベッドのご使用に際して不安や疑問があるときは、かかりつけの医師にご相談ください。

●ベッドの脇や下、またベッド周辺の動作範囲には物を置かないでください。
ベッドの下に物をはさんだ場合、ベッドの破損や使用者の転倒、転落の危険があります。
また、ベッドの背上げ、背下げまたは高さ調整を行う場合には、点滴のスタンドやチューブ、その他医療機器など周りの物に注意しながら操作を行ってください。

●手すりにぶつからないように注意してください。
体位変換など介助する場合やベッドの近くにいるときは、手すりにぶつからないように注意してください。
手すりは金属製のため、強くぶつかると打撲の恐れがあります。

●手すりに座らないでください。
手すりにぶら下がったり腰掛けると、転倒やケガの恐れがあります。

●必ずマットレス(エアマットレスなどを含む)をご使用ください。
また、マットレスの設置に注意してください。
マットレスやエアマットレスがベッドの向きと合っているか、また、マットレスの使用方法が適切であるか確認してください。

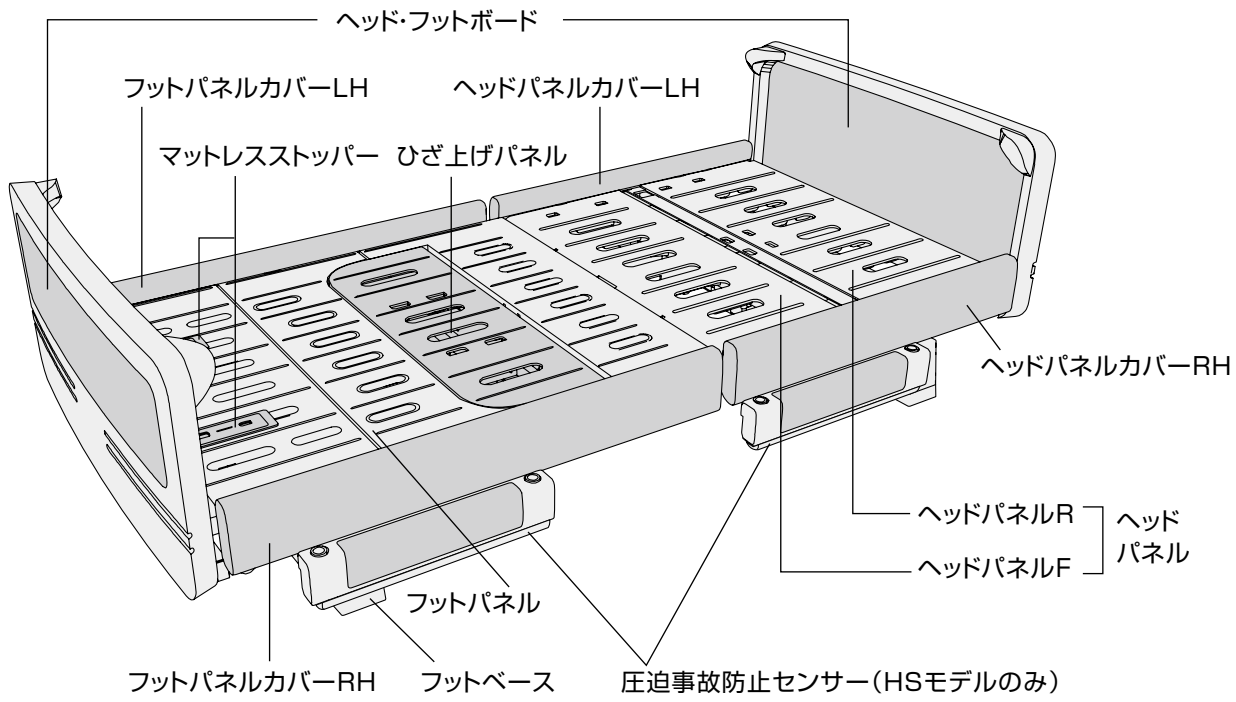
●ベッドをロングで使用する場合、足元側のすき間に十分注意してください。
ベッドをロングで使用する場合、パネルの無いすき間が足元側に生じます。
頭・腕・足などはさまないよう十分注意してください。

●緊急時には、ベッドを水平な状態へもどしてください。
停電や、背上げ中ベッドが急に止まった場合には、ベッドを水平な状態へ戻してください。(P36参照)

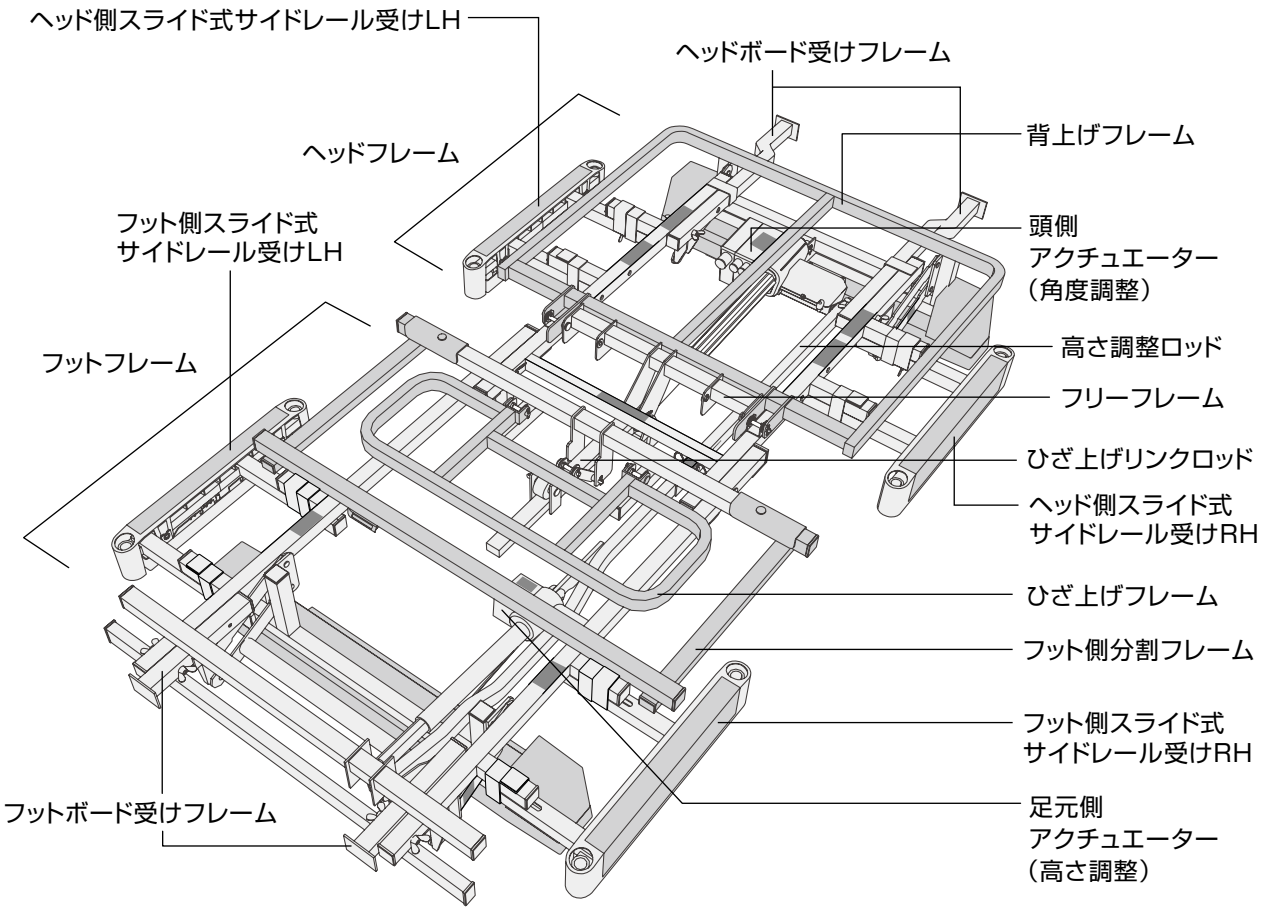
●定期点検を行ってください。
長く、安全にご使用いただくために、定期点検を行ってください。(P30参照)
万一、破損やガタつきなどがひどい場合には、直ちに使用をやめて販売店にご連絡ください。

●スライド式サイドレール受けを持ってベッドを移動させないでください。
指定の位置を持って移動させてください。HSモデルは、圧迫事故防止センサーが破損する恐れがあります。

●ベッド&パネル


ヘッド･フットボード
フットパネルカバーLH
ヘッドパネルカバーLH
マットレスストッパー
ひざ上げパネル
ヘッドパネルカバーRH
ヘッドパネルR
ヘッドパネルF
ヘッドパネル
フットパネル
フットパネルカバーRH
フットベース
圧迫事故防止センサー（HSモデルのみ）

●フレーム

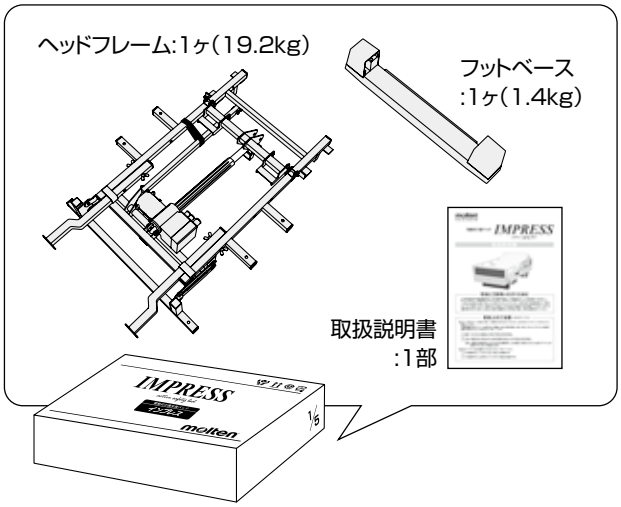

ヘッド側スライド式サイドレール受けLH
ヘッドボード受けフレーム
ヘッドフレーム
背上げフレーム
フット側スライド式
サイドレール受けLH
頭側
アクチュエーター
（角度調整）
フットフレーム
高さ調整ロッド
フリーフレーム
ひざ上げリンクロッド
ヘッド側スライド式
サイドレール受けRH
ひざ上げフレーム
フット側分割フレーム
フット側スライド式
サイドレール受けRH
フットボード受けフレーム
足元側
アクチュエーター
（高さ調整）

梱包形態

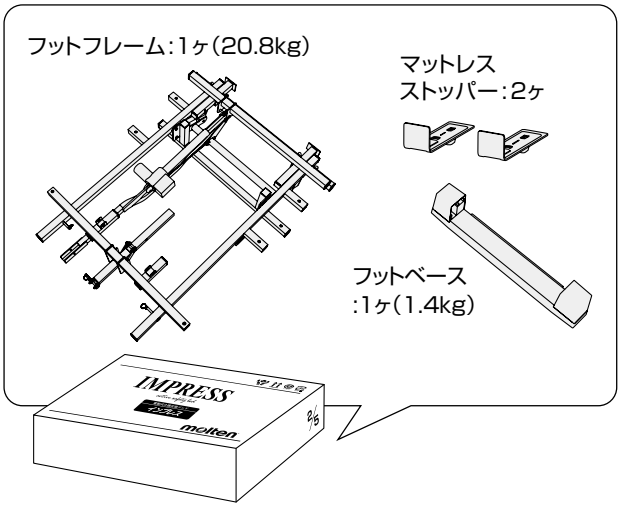
●梱包内容

記載部品が全て揃っているか、また破損・変形などしていないか確認してください。
万が一、部品の不足・破損があった場合はお買い求めの販売店にご連絡ください。

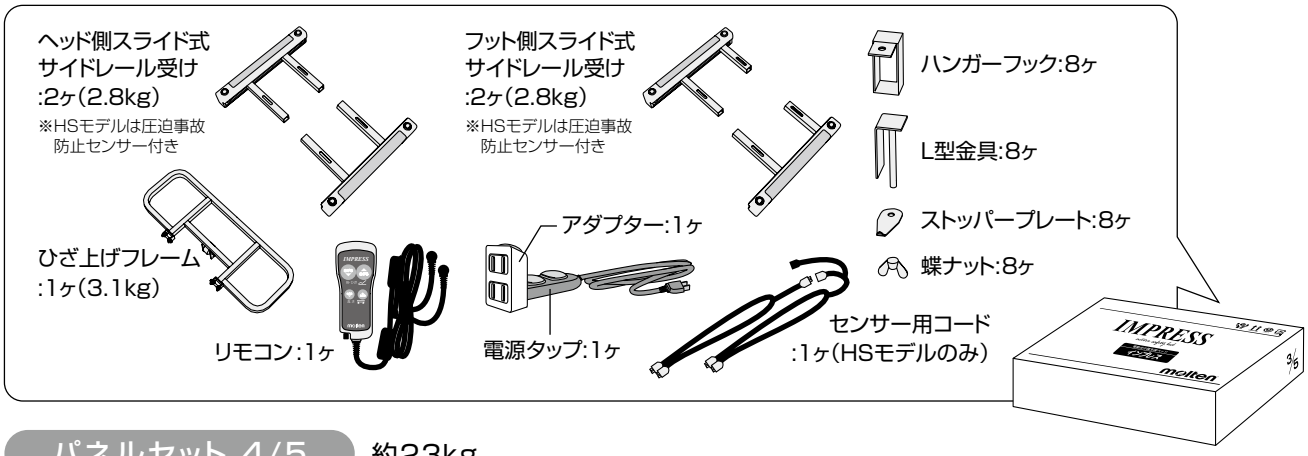
ヘッドフレーム 1/5　約27kg



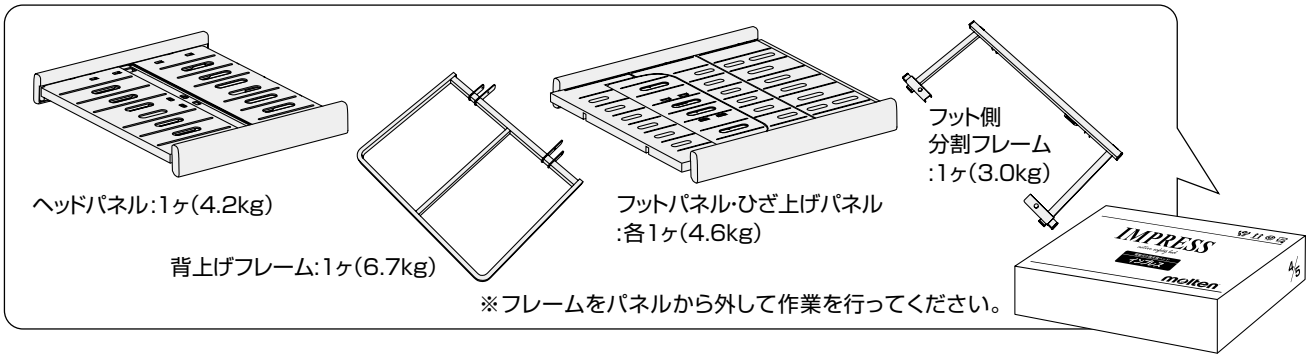
フットフレーム 2/5　約27kg



フレームパーツセット 3/5　約12kg

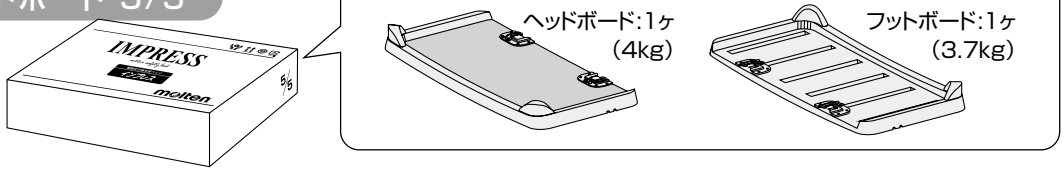


パネルセット 4/5　約23kg



ヘッド・フットボード 5/5

約11kg



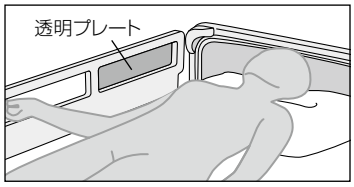
重大事故を未然に防ぐための安全対策（インプレスだけの機能）

●ベッド背上げ時のはさみ込み事故の対策

従来のベッド付属品（サイドレール･ベッド用手すり）の【すき間】にご本人の腕が入ったままベッドの背上げを行うことで骨折などの事故につながる可能性があります。多くは掛け布団が掛かっているため、腕が入っているかの確認がしにくいといえます。

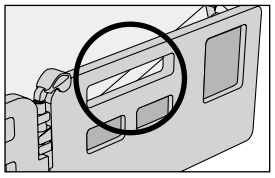
①透明プレートによる事故対策

インプレスの付属品は、腕が入り抜けにくい部分に透明プレートを設け、ベッド背上げ時の腕のはさみ込み事故の対策と閉塞感の軽減をしています。

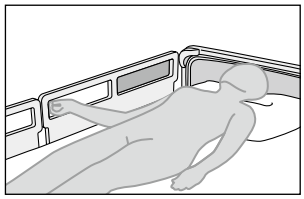


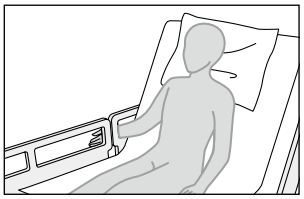
②小窓形状による事故対策

腕が入る可能性のあるサイドレールの小窓は横長形状にすることで、万が一腕を入れた状態でベッドの背上げをしても腕を逃がし、骨折などの事故を対策しています。

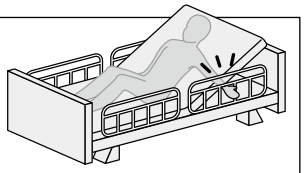


ベッド用手すりに設けた左図の小窓部分は、高い位置にあって腕のはさみ込みが想定しにくく、掛け布団があっても気付く可能性が高いため、透明プレートを設けず、握りやすさを考慮しています。





腕をはさみ込んだ状態でのベッド背上げによる事故

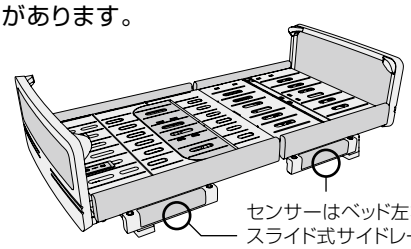


●ベッド下に体が入ったままベッドを下げたときの圧迫事故の対策

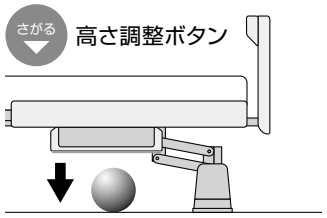
ベッドから転落してそのままベッド下で動けなくなるなど、ベッド下に頭や体が入り込んだ状態で、誤ってベッドの高さ調整（下げる）をした場合、骨折や窒息などの圧迫事故につながる可能性があります。

圧迫事故防止センサーによる事故対策 HSモデルのみの機能

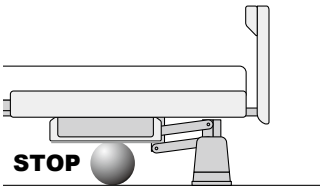
ベッド下部4ヶ所に設けた『圧迫事故防止センサー』がベッド高さを下げる途中で何かに接触すると、自動的にベッドの動きが止まり、骨折や窒息などの圧迫事故を対策しています。



センサーはベッド左右のスライド式サイドレール受け（計4ヶ所）の下部にあります。



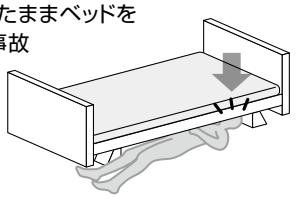
リモコンの『さがる』ボタンを押すとベッド高さが下がります。



センサーが何かに接触すると、ベッドの動きが自動的に止まります。

ベッド下に体が入ったままベッドを下げたときの圧迫事故

電動モーターにより約600kgfの圧迫が掛かります。



⚠ 警告

- ●圧迫事故防止センサーは各スライド式サイドレール受けの下部についています。（4ヶ所）それ以外の部分に接触してもセンサーは反応しません。
- ●圧迫事故防止センサーは事故を予防するための補助装置です。圧迫事故防止センサーだけでは事故をすべて防ぐことはできません。ベッドを操作するときは、センサーが正しく作動するのを確認し、またベッドから頭･腕･足などが出ていないか、ベッドの下に人･物がないかを確認して操作を行ってください。

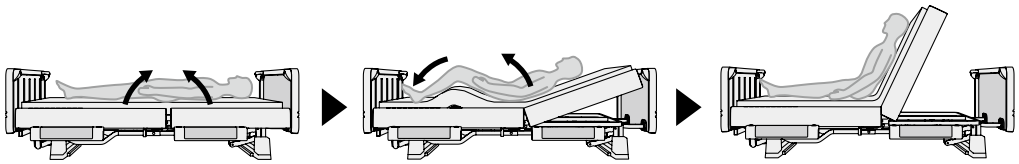
注意　●圧迫事故防止センサーはベッドの高さ調整に対してのみ作動します。

アクティブセーフティーモード

PAT.P.

●電動式 ひざ上げ･背上げ･ひざ下げ連動機能

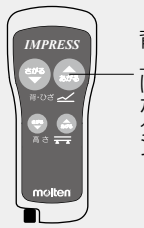
【ひざ上げ】−【背上げ】−【ひざ下げ】が連動し、ボタンひとつで自動的に正しいベッド操作ができます。
シンプルボタンのリモコンは操作ミスも起こりにくく、より安全に使用できます。



ひざと背が一緒に上がります。

ある程度背が上がるとひざが下がります。

背が完全に上がるとひざ部分は完全に下がります。

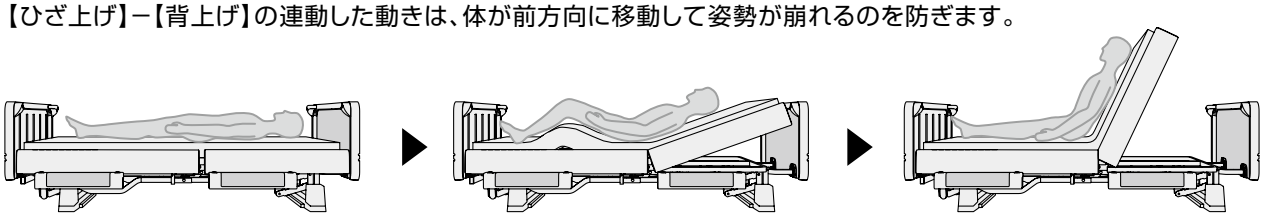


簡単操作リモコン

●ASモードが可能にする3つの効果

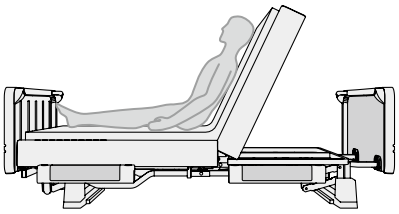
①姿勢の崩れを防ぎます。

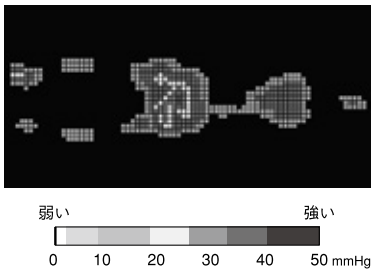
【ひざ上げ】−【背上げ】の連動した動きは、体が前方向に移動して姿勢が崩れるのを防ぎます。



②優しく体を起こします。

【ひざ上げ】−【背上げ】−【ひざ下げ】の連動した動きは、ベッド背上げ時、背中やおしりにかかる力（圧）が低減され、楽な姿勢になります。

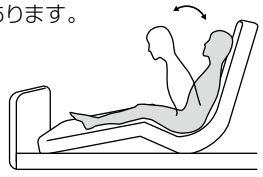




●ワンポイントアドバイス

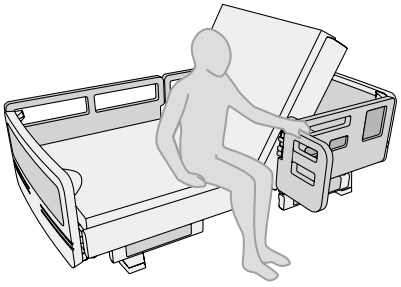
背抜きとは…

マットレスと背中部分を離すことで、苦しさを取り除く介護技術です。しかし、老老介護や背抜きのし忘れなどの問題点もあります。



③立ち上がり動作をサポートします。

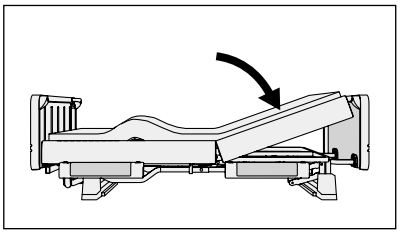
背上げが完了するとひざが下がり、ベッド座面が平らになることで端座位を取りやすくしています。また、リハビリ回復期の端座位での食事にも有効です。

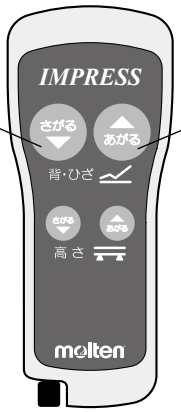


●角度調整(リモコン操作)

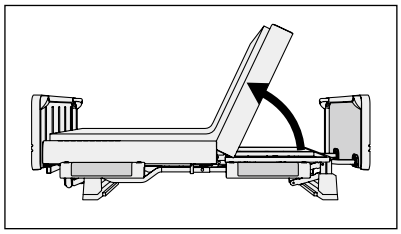
リモコンによりベッドの背上げ･ひざ上げの角度が無段階で調整できます。(ひざ上げは背上げと連動して動きます。)
『あがる』『さがる』のボタンを押すと角度が変化し、離すとその位置で止まります。

『さがる』
押している間、背上げ･ひざ上げ部が
下がっていきます。





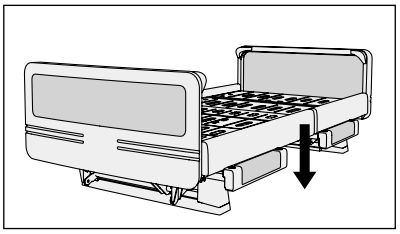
『あがる』
押している間、背上げ･ひざ上げ部が
上がっていきます。

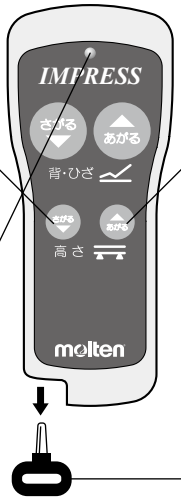


●高さ調整(リモコン操作)

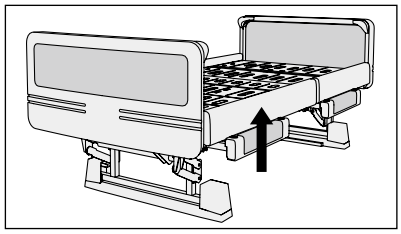
リモコンによりベッドの高さが無段階で調整できます。
「あがる」「さがる」のボタンを押すと高さが変化し、離すとその位置で止まります。

『さがる』
押している間、ベッド高さが
下がっていきます。





『あがる』
押している間、ベッド高さが
上がっていきます。



ロックキーを抜くと
高さ調整ができなくなります。

ランプ HSモデルのみ

圧迫事故防止センサーが正しく接続されている場合は、緑色に点灯します。ランプが点灯していることを必ず確認してください。センサーに人･物が接触している場合にはランプが消え、ベッド高さが下がらなくなります。また、ロックキーを抜くとランプが消え、高さ調整ができなくなります。

注意	●『さがる』を押している間に、圧迫事故防止センサーに何かが接触して止まると、そのまま『さがる』を押し続けてもベッド高さは下がらなくなります。その場合は、一旦『あがる』を押してから、接触している物を取り除いた上で、『さがる』を押してください。

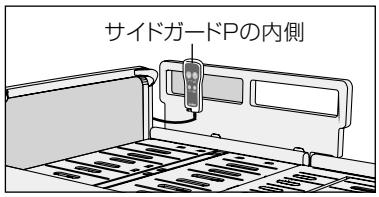
⚠ 警告	●圧迫事故防止センサーは事故を予防するための補助装置です。 圧迫事故防止センサーだけでは事故をすべて防ぐことはできません。ベッドを操作するときは、センサーが正しく作動するのを確認し、またベッドから頭･腕･足などが出ていないか、ベッドの下に人･物がないかを確認して操作を行ってください。

リモコン操作方法

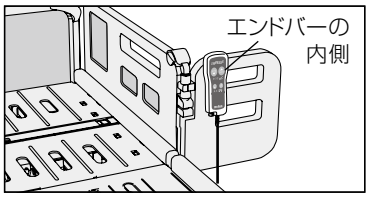
●リモコン設置位置

リモコンは、付属品の所定の位置に置いてください。

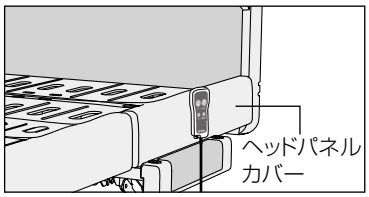
【サイドガードPにつける場合】



【ウイングガードにつける場合】



【付属品がない場合】



⚠ 警告

- ●リモコン操作は操作が理解できる方が行ってください。
- ●リモコンは所定の位置に置いてください。
- ●リモコンでのベッド高さ調整時、ベッドは頭側に動きます。頭側には25cm以上のスペースを確保してください。
- ●背上げ･高さ調整 連続操作可能時間は約3分です。
  （連続でリモコン操作を行う場合、20分の休止時間が必要です。）
- ●HSモデルの場合は、リモコンのランプが点灯していることを確認してください。

長さ･高さ設定変更方法

●3段階の長さ設定

インプレスは介護ベッドを使用する部屋の広さやご本人の身長に合わせて、3段階のサイズ調整ができます。

※ベッド組み立て後の長さ設定変更についてはP26、P27をご覧ください。

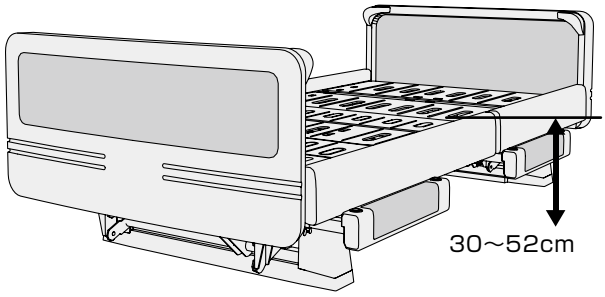
●対応身長の目安

レギュラーサイズ／150～170cm
ショートサイズ／150cm以下
ロングサイズ／170cm以上

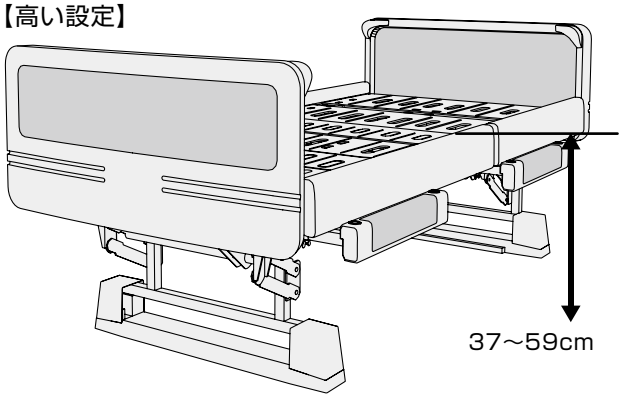
●2段階の高さ設定

フットベースの設定で【低い設定】【高い設定】が選べます。通常は低い設定をお勧めします。
フットベース側面のフットベースカバーを外し設定を行います。
低い設定:ボトム高さ30～52cm
高い設定:ボトム高さ37～59cm

【低い設定】



【高い設定】



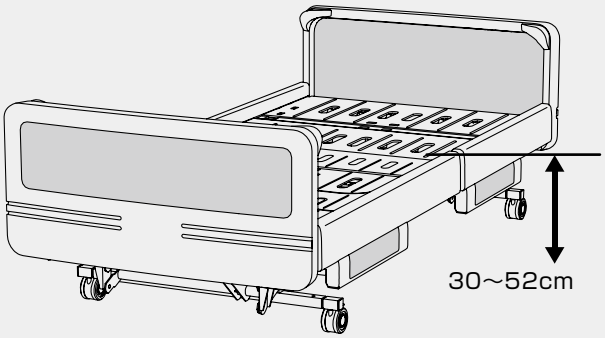
長さ・高さ設定変更方法

●キャスター（別売）使用時の高さ

ボトム高さ30～52cm

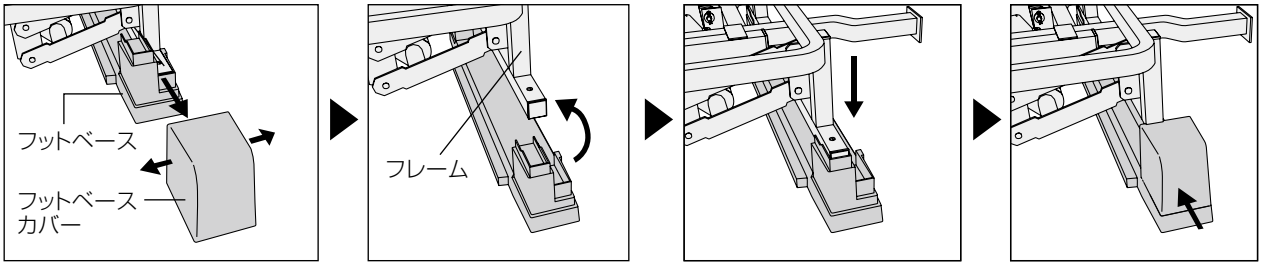
※キャスターは別売です。

床・畳のキズやへこみの防止に、エフプロテクター（別売）をご使用ください。
品番　MFP-BE（ベージュ）／MFP-GR（グレー）
●サイズ：直径20×厚さ0.8cm
●素　材：オレフィン系エラストマー



●高さ設定変更方法

フットベースの高さ設定を変えると、ベッドの高さが7cm変わります。



①フットベースカバーを広げながら手前に外します。

②フレームを持ち上げます。

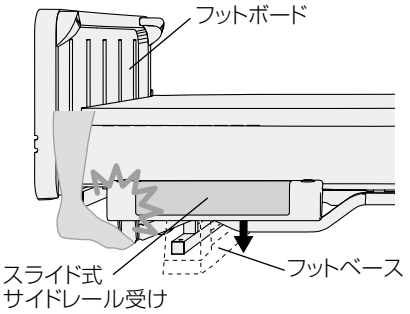
③フットベースの高い設定の溝にフレームを設置します。

④フットベースカバーをかぶせます。

⚠ 警告

●重量物のため、手足をはさまないように注意して作業を行ってください。
●必ずフットベースの所定の位置に、フレームを設置してください。
●フットベースを外して使用しないでください。
フットベースを取り外して使用すると、ベッドの高さが低くなり、スライド式サイドレール受けと床の間に足をはさむ恐れがあります。

フットベースを取り外すとスライド式サイドレール受けと床のすき間に足をはさむ恐れがあり危険です。



⚠ 注意

HSモデルのみ

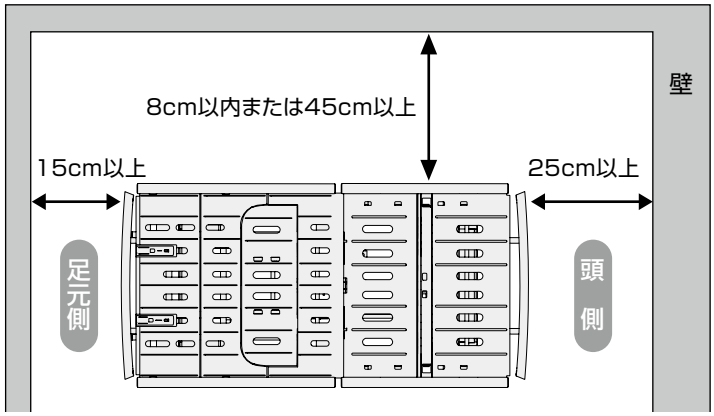
●スライド式サイドレール受けを持ってベッドを移動させないでください。
圧迫事故防止センサーが破損する恐れがありますので、指定の位置を持って移動させてください。
●HSモデルの場合は、フットベースを外すことができます。
フットベースを外した時のボトム高さは20～42cmになります。

※ベッド組み立て後の高さ設定変更についてはP38をご覧ください。

設置場所

●設置条件

ベッドを設置する場合は、下記の条件を考慮して設置してください。



頭　側

壁とヘッドボードとの距離を25cm以上離してください。高さを最低高から最大高まで上げると、約10cm頭側に動きます。

足元側

壁とフットボードとの距離を15cm以上離してください。

> ⚠ 注意
> ●一度組み立ててしまうと、部屋の中での移動や、向きの変更をすることが困難な場合があります。
> ●障害物には十分注意して設置してください。

●ベッドの周辺スペースを確保してください。

ご本人が乗り降りしやすいスペースがあるか、車いすをご使用の場合はベッドのどちら側で使用するのか、介護される方が介護を行うスペースは十分確保できるかなどを考慮してください。
また、高さを上げた場合や、背上げを行うとベッド本体の高さが高くなるので、周辺機器、家具、構造物などに当たらないように十分確認してください。

●ベッドの下に物を置かないでください。

HSモデルには圧迫事故防止センサーが付いているため、ベッド下の物がセンサーに当たり、ベッド高さ調整ができなくなる場合があります。

●周辺機器とのすき間を確認してください。

壁際や機器周辺に設置する場合、それらとのすき間や周辺にある家具などとの距離（すき間）を確認してください。
仮にご本人がそのすき間に転倒、転落した場合でもはさまれない位置に設置してください。また、ご本人の身体状態により転倒、転落の可能性がある場合はご使用をおやめいただくか、必ず介護者の付き添いのもと、ご使用ください。
手すりなどの周辺機器を設置する場合には、設置する周辺機器の取扱説明書にしたがい、すき間に十分注意して設置してください。

●水平な床面を選んでください。

●ベッドの重量は78kg（HSモデルは79kg）です。

ベッドとご本人、付属品、寝具などの重量も全て合計した重量が床面にかかります。
この重量に十分耐えられる場所をお選びください。

●電源プラグが抜き差ししやすいところへ設置してください。

誤動作防止のため、電源プラグを抜くことが必要になる場合があります。

●電源は直接コンセントからとってください。

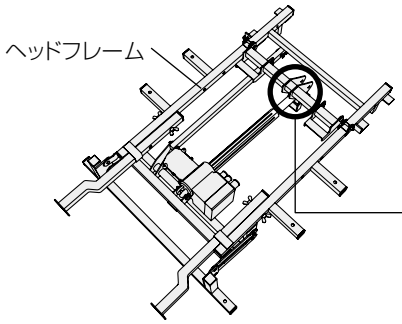
コンセントや延長コードの容量を超える電気製品を同時に接続したり、たこ足配線などを行うと、電源コードや電源プラグが発熱する恐れがあります。

●冷暖房機などの冷気・暖気がベッドに直接当たらないようにしてください。

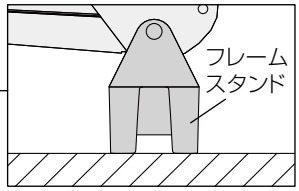
組み立て方法

※組み立て作業は販売店の方に依頼されることをお勧めいたします。

1　ヘッドフレームの準備



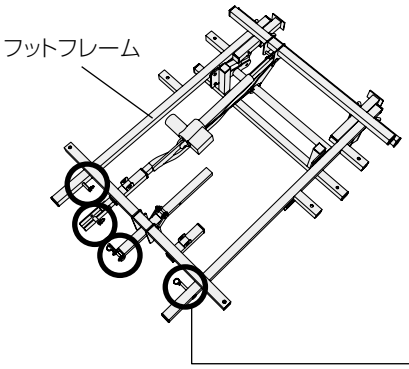
段ボールからヘッドフレーム、フットフレームを取り出し、
最初にヘッドフレームを平らな床の上に置きます。



床に対してフレームスタンドが垂直に
なるように設置してください。

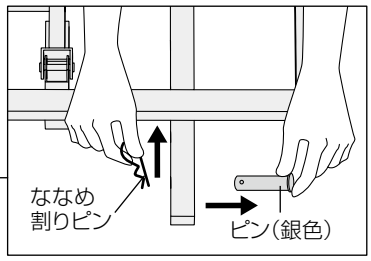
キャスターを取り付ける場合は、この時点で取り付けてください。
キャスターの取り付け方法はキャスターセット取扱説明書を参照してください。

2　フットフレームのピン取り外し



フットフレームの左図の位置4ヶ所についているななめ割りピンと
ピンを外してください。

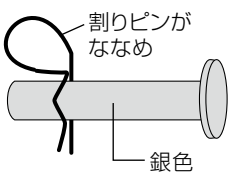
※このとき外すピンは銀色です。割りピンはななめになっています。

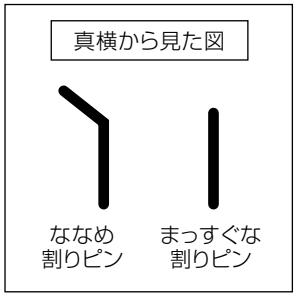


注意　●組み立て時に使用するピンは銀色で割りピンがななめになっています。これ以外の黒いピンは外さないでください。

▼こちらのピンを外します。

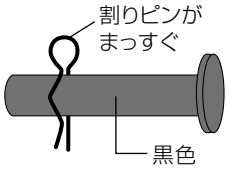
〇〈ななめ割りピン〉



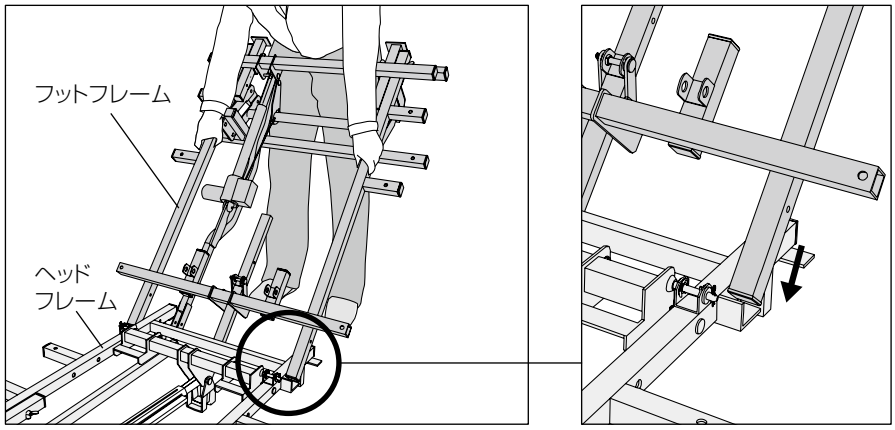


▼外さないでください。

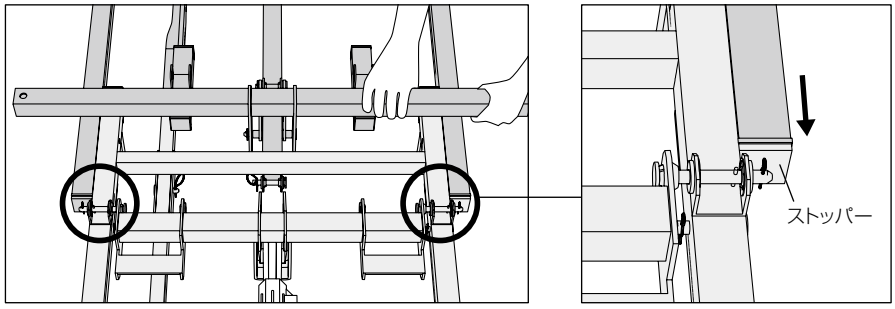
×〈まっすぐな割りピン〉



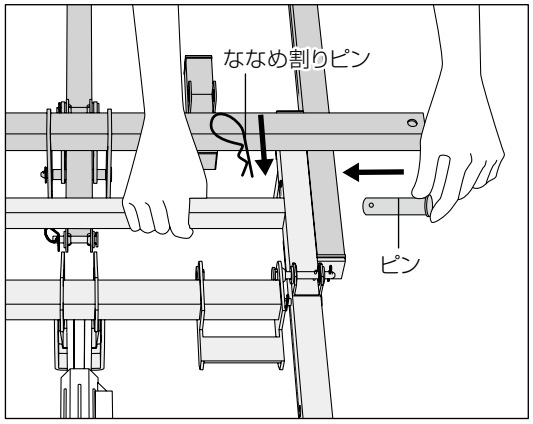
3 ヘッドフレームとフットフレームの接続



床に置いたヘッドフレームに、フットフレームを上から置くように設置してください。
左図の手の位置を持ち、倒しながら設置してください。



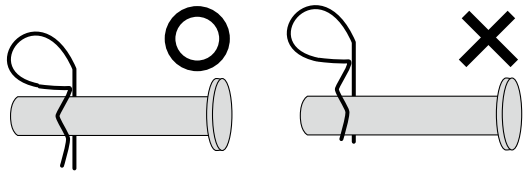
ストッパーがある位置まで差し込んでください。



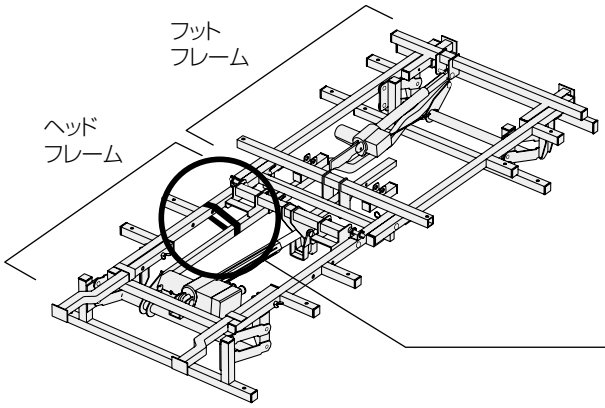
フレームを持ち上げながら、2 で外したピンを差し込み、ななめ割りピンで固定します。

●割りピンの差し込みについて

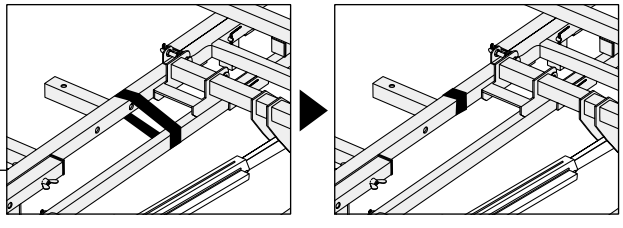
下のイラストのように奥まで割りピンを差し込んでください。
ご使用中にピンが外れケガをする恐れがあります。



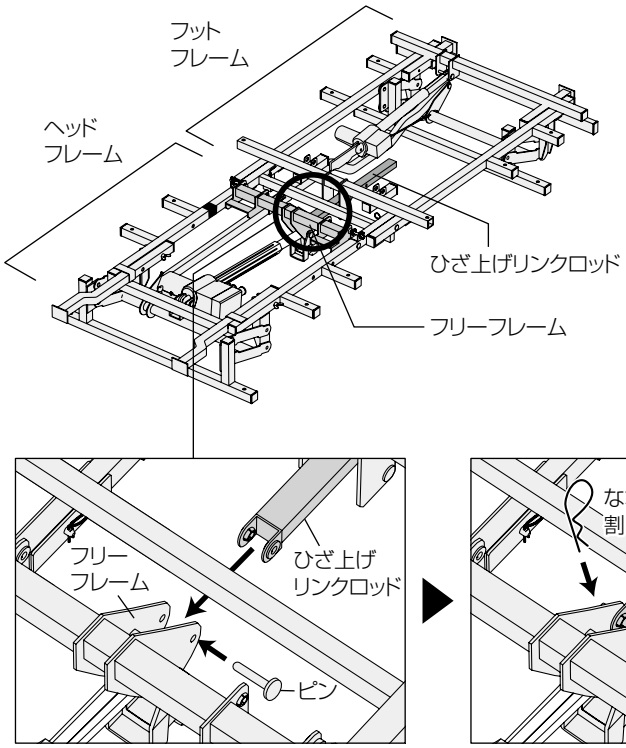
4 固定バンドの取り外し



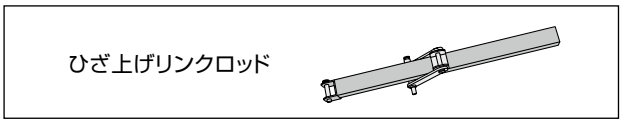
ヘッドフレーム側の高さ調整ロッドとフレームを固定しているフレーム固定バンドを外してください。
外したフレーム固定バンドは紛失防止のため、フレームに巻きつけてください。



5 ひざ上げリンクロッドの接続

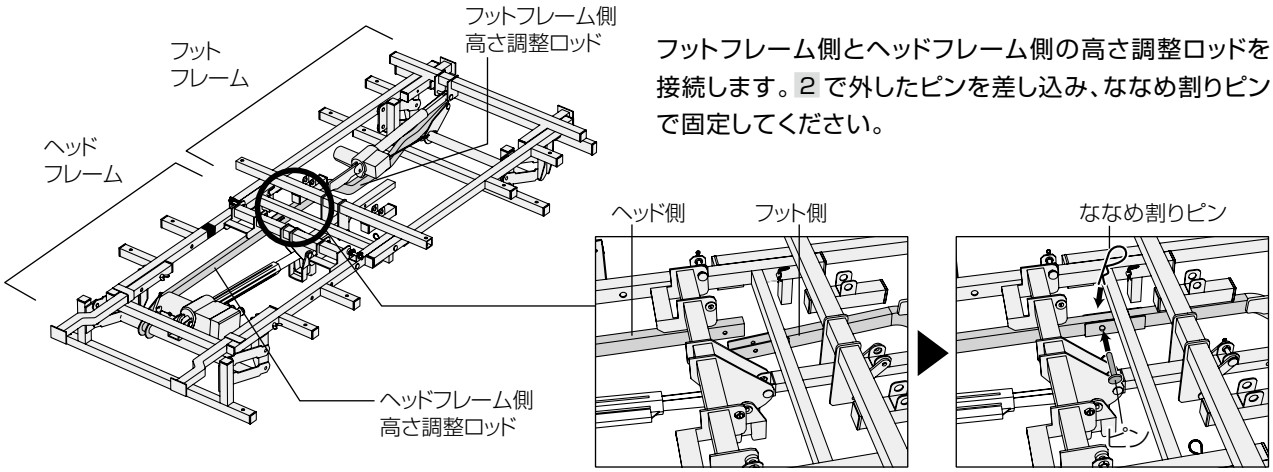


ひざ上げリンクロッドをフリーフレームに接続します。

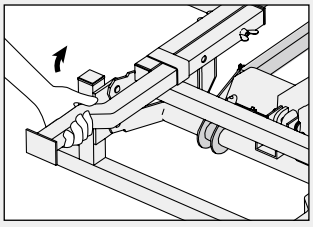


左図のように、2 で外したピンを差し込み、ななめ割りピンで固定してください。

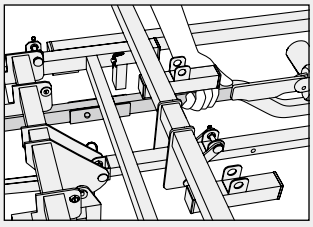
6 高さ調整ロッドの接続



フットフレーム側とヘッドフレーム側の高さ調整ロッドを接続します。2 で外したピンを差し込み、ななめ割りピンで固定してください。

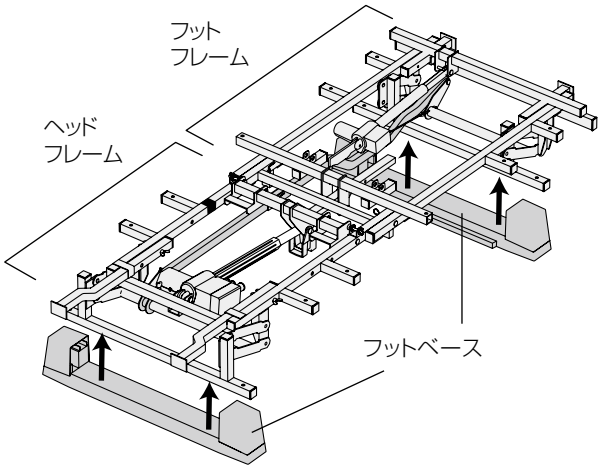


高さ調整ロッドが接続しにくい場合は、ヘッドフレームを少し持ち上げてください。

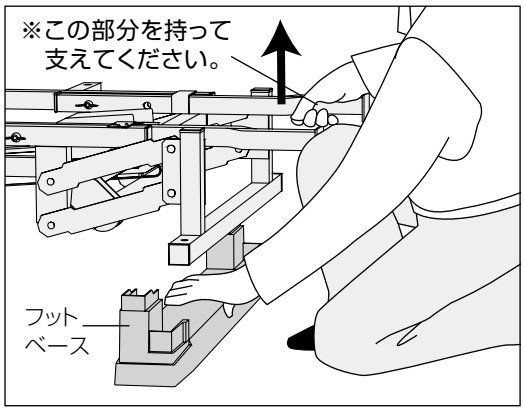


ピンが入りにくい場合は、高さ調整ロッドを少し持ち上げてください。

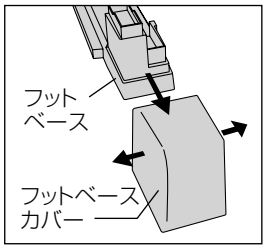
7 フットベースの取り付け



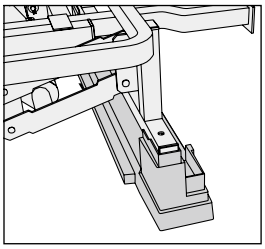
ヘッドフレーム･フットフレームそれぞれの脚に、
フットベースを取り付けます。



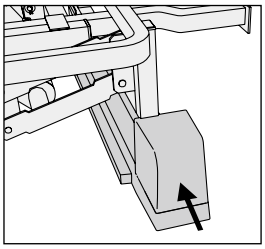
フットベースカバーを外してください。
ボード受けフレームを片手で持ち上げながら、もう片方の手でフットベースを動かして、フットベースの溝にフレームをはめてください。
最後にフットベースカバーを取り付けてください。



①フットベースカバーを広げながら手前に外します。

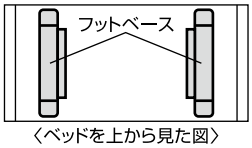


②フットベースの溝にフレームを設置します。



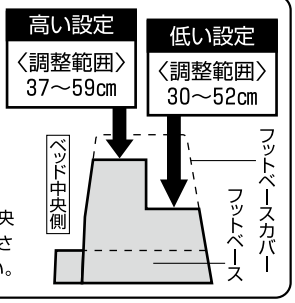
③フットベースカバーを取り付けます。

【設置方法】



〈ベッドを上から見た図〉

フットベースの高い設定側がベッド中央を向くように設置し、使用するベッド高さに合わせてフレームをのせてください。

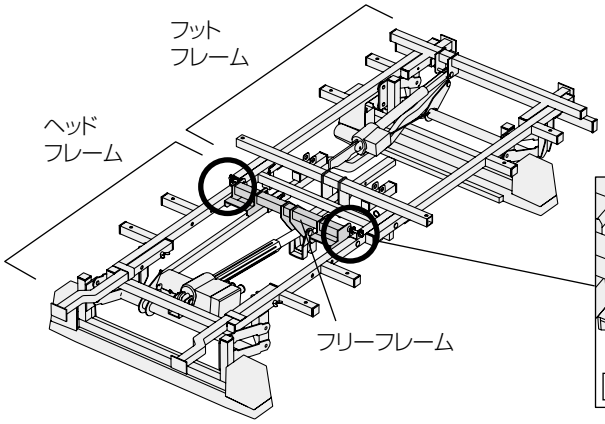


**※フットベースの高さは2段階に調整できます。
ヘッドフレーム側･フットフレーム側が同じ高さになるようご注意ください。**

⚠ 警告

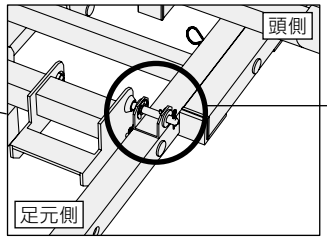
- ●重量物のため、手足をはさまないよう注意して作業を行ってください。
- ●必ずフットベース所定の位置に、フレームを設置してください。

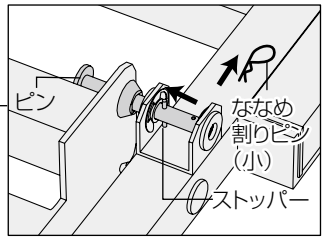
8 背上げフレームの取り付け ※背上げフレームをパネルから外して作業を行ってください。



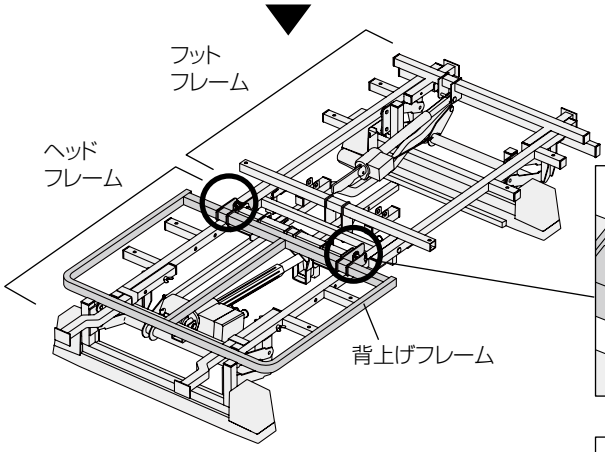
ヘッドフレームに、背上げフレームを取り付けます。

ヘッドフレームとフリーフレームを固定している部分のななめ割りピンを外し、ピンを1/3ほど抜きます。

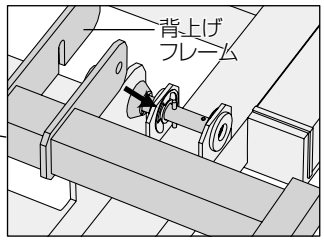


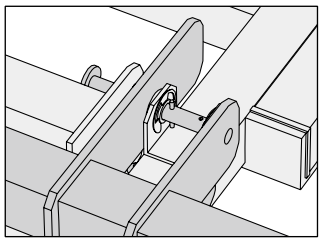


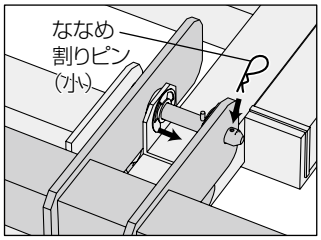
※ピンをすべて抜くとフレームが外れてしまうため、すべて抜けないようにストッパーがついています。



ピンについているゴムのすき間に、背上げフレーム接続部の切り込みを合わせ、取り付けます。

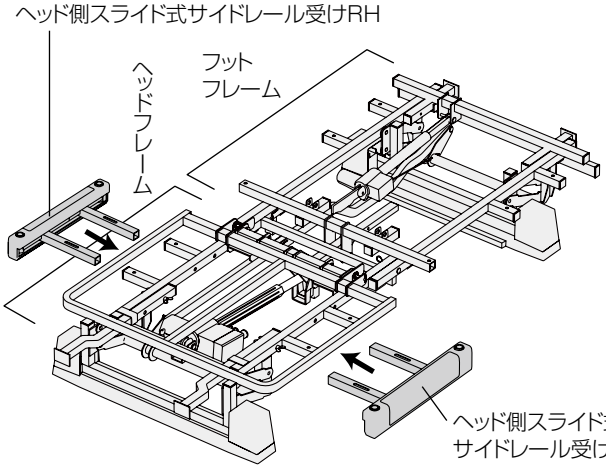






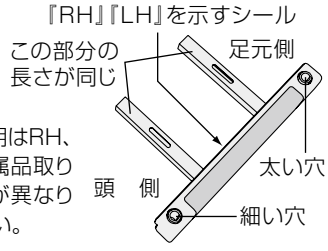
ピンを元通りに差し込み、ななめ割りピンで固定してください。

9 ヘッド側スライド式サイドレール受けの取り付け



ヘッド側スライド式サイドレール受けを接続します。

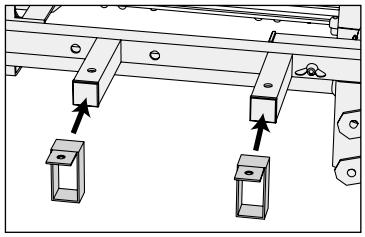
ヘッド側スライド式
サイドレール受け



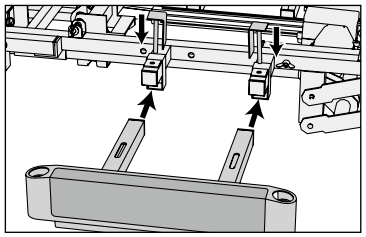
※足元側から見て、右側用はRH、左側用はLHです。付属品取り付け用の穴のサイズが異なりますのでご注意ください。

※HSモデルには圧迫事故防止センサーが付いていますが、取り付け方法は同じです。

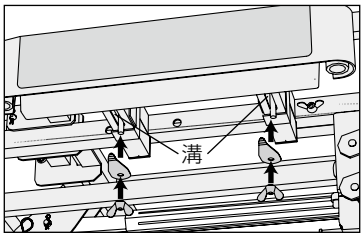
※取り付け穴の細い方が頭側、太い方が足元側になるように接続してください。



ヘッドフレームにハンガーフックを図の向きで取り付けます。

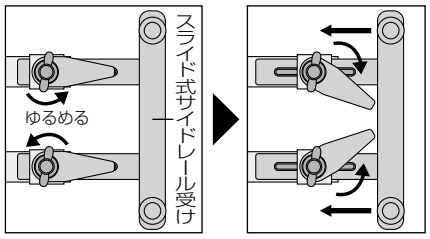


ハンガーフックの受け口にスライド式サイドレール受けを差し込み、上からL型金具を取り付け穴（2ヶ所）に図の向きで差し込みます。



スライド式サイドレール受けを手前に引き出し、ストッパープレートを下から合わせ、蝶ナットをしめて固定します。先端の返しが溝にはまるように取り付けてください。

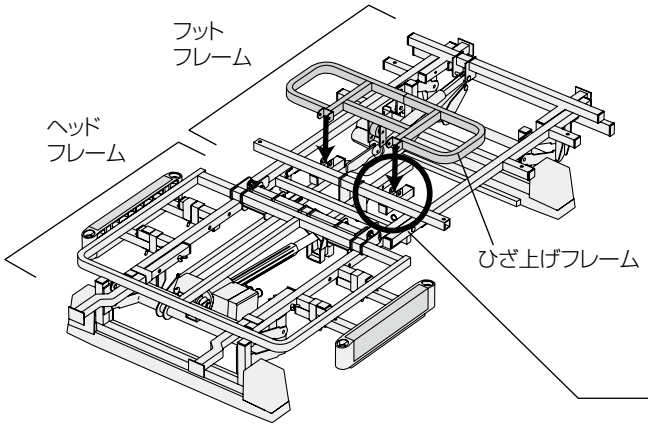
【ベッドの下から見た図】



スライド式サイドレール受けを納める場合は、蝶ナットをゆるめてストッパープレートの先端を内側にずらし、奥にスライドしてください。

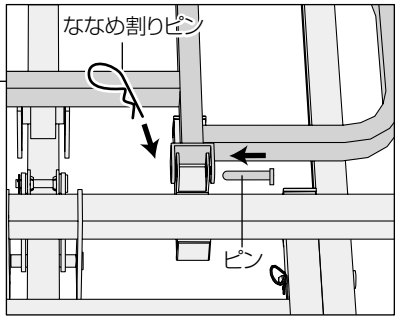
※付属品を取り付けないときには、スライド式サイドレール受けを左記手順で納めてください。

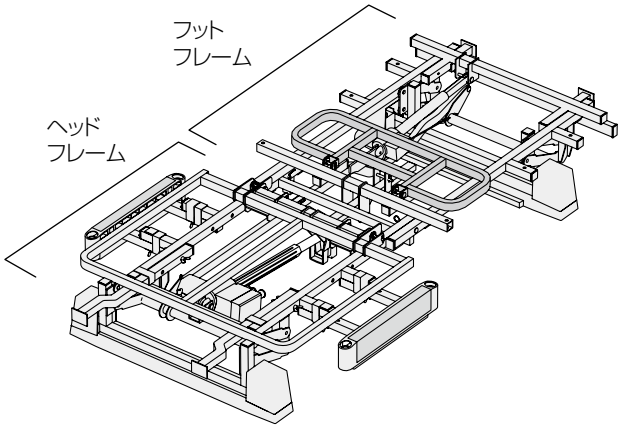
10 ひざ上げフレームの取り付け



フットフレームにひざ上げフレームを接続します。

ひざ上げフレームに付いているピンとななめ割りピンを外し、接続部を図のようにフットフレームの所定の位置に合わせます。

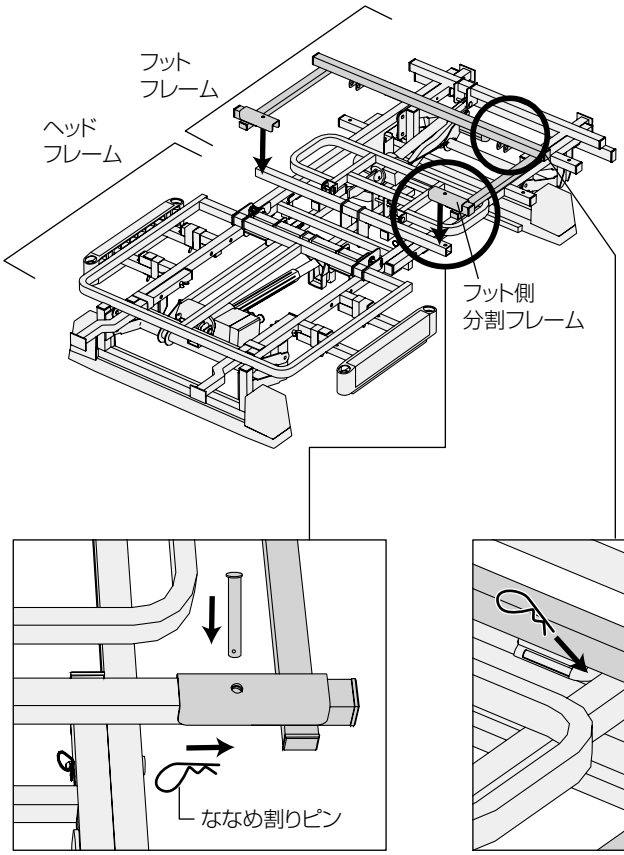




外したピンとななめ割りピンで、ひざ上げフレームを固定します。

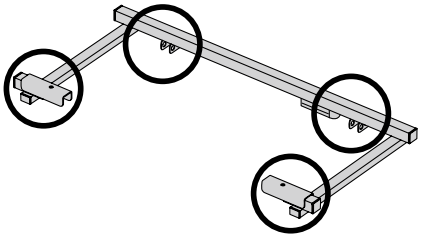
11 フット側分割フレームの取り付け

※フット側分割フレームをパネルから外して作業を行ってください。

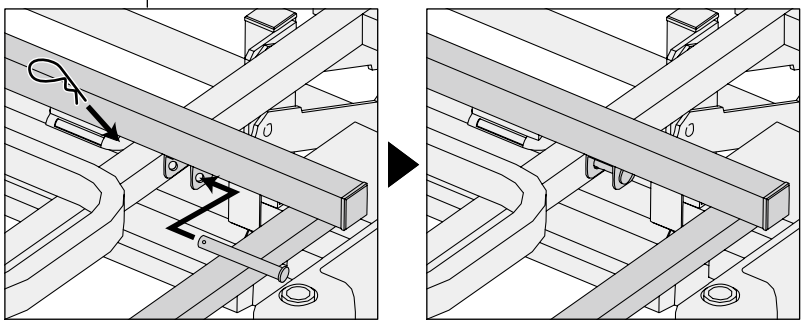


フットフレームにフット側分割フレームを接続します。

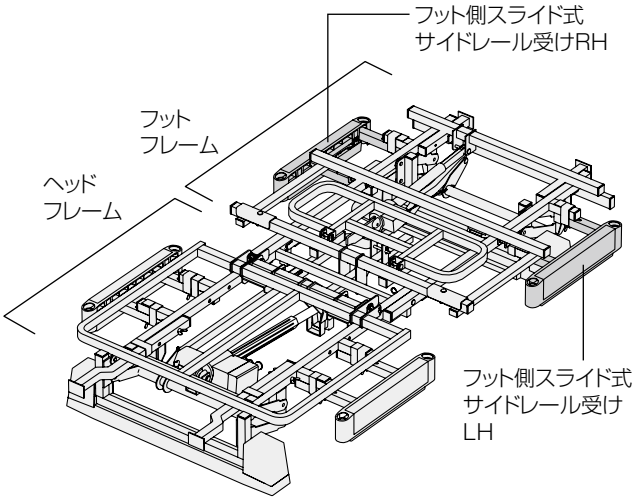
フット側分割フレームに付いているピンとななめ割りピンを外します。(4ヶ所)



フット側分割フレームを、フットフレームの所定の位置に合わせ、外したピンとななめ割りピンで固定します。

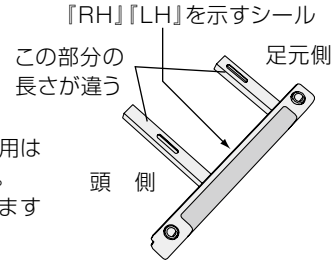


12 フット側スライド式サイドレール受けの取り付け



フットフレームにフット側スライド式サイドレール受けを接続します。

フット側スライド式
サイドレール受け



※足元側から見て、右側用はRH、左側用はLHです。
左右で形状が異なりますのでご注意ください。

※HSモデルには圧迫事故防止センサーが付いていますが、取り付け方法は同じです。

※接続部の長い方が頭側、短い方が足元側になるように接続してください。

接続方法は、ヘッド側スライド式サイドレール受けと同様です。(P19、P20をご覧ください)

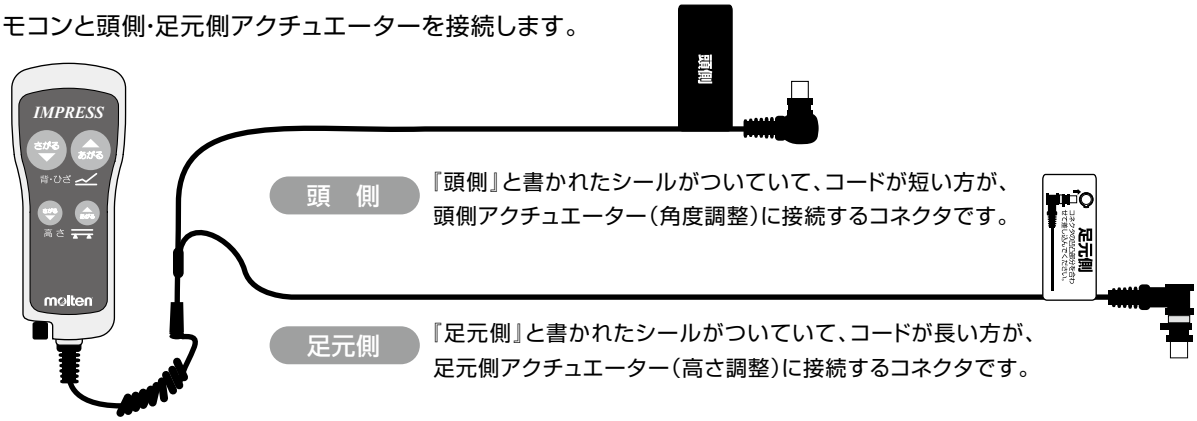
以上でフレームの組み立ては完了です。

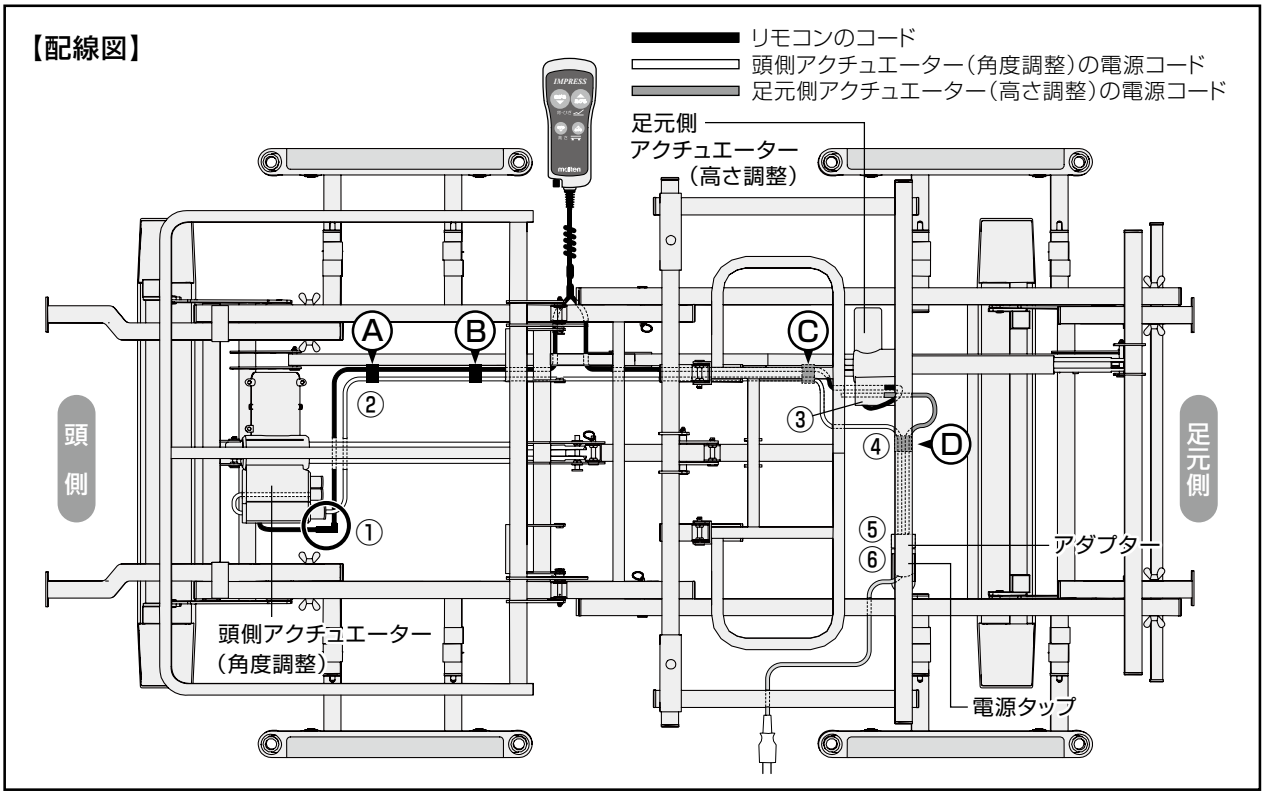
13 リモコンの接続

※HSモデルセンサー用コードについては、P24、P25をご参照ください。

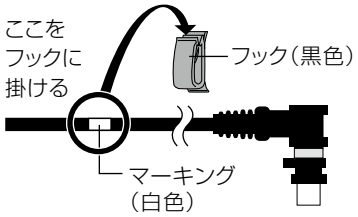
●リモコンの接続方法

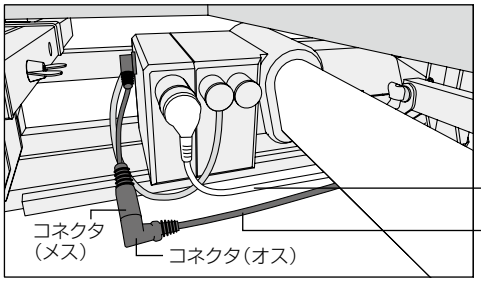
リモコンと頭側・足元側アクチュエーターを接続します。



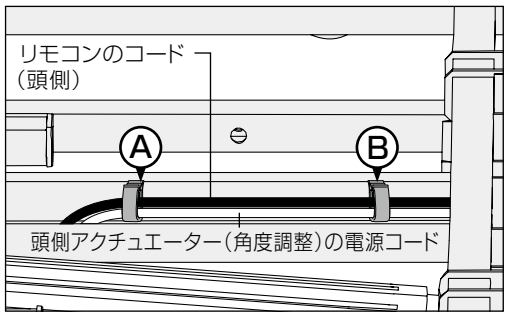


上の【配線図】を見ながら、以下の手順でリモコンとアクチュエーターを接続してください。リモコンコードと各電源コードには、A～Dの各フック（黒色）に掛ける位置を示す白色のマーキングがあります。マーキングの部分をフック（黒色）に掛けるようにしてください。



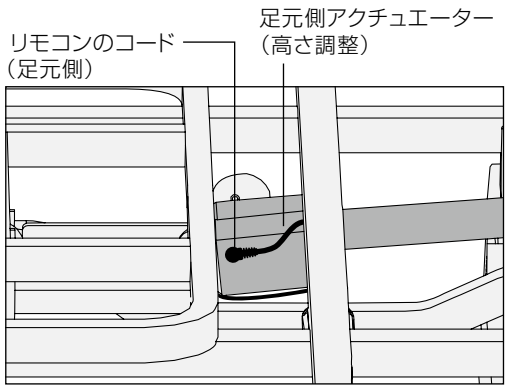


①リモコンのコネクタ（頭側／オス）を、頭側アクチュエーター（角度調整）から出ているコネクタ（メス）に差し込みます。コネクタの向きに注意して、しっかり差し込んでください。

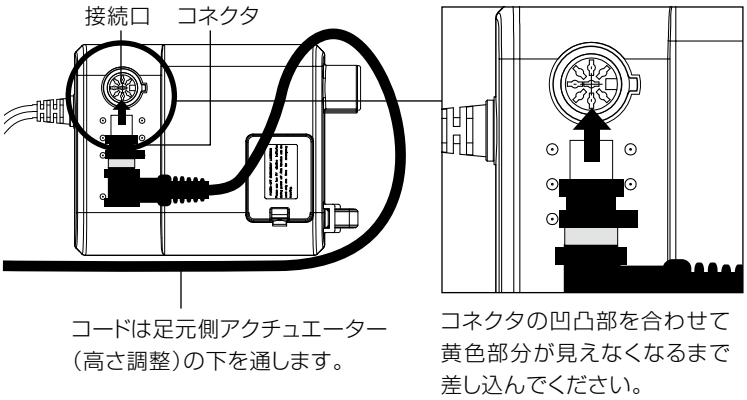


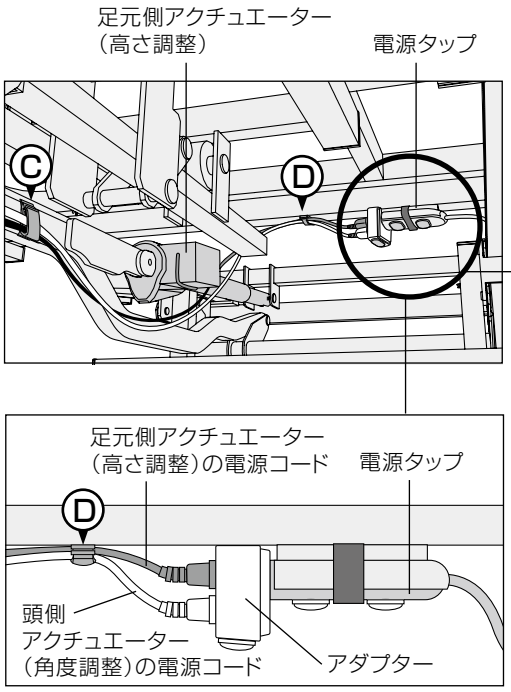
②リモコンのコード（頭側）と、頭側アクチュエーター（角度調整）の電源コードを一つにして、ⒶとⒷのフック（黒色）にかけます。

同様に、Ⓒのフック（黒色）には、リモコンのコード（足元側）と頭側アクチュエーター（角度調整）の電源コードを一つにしてかけます。



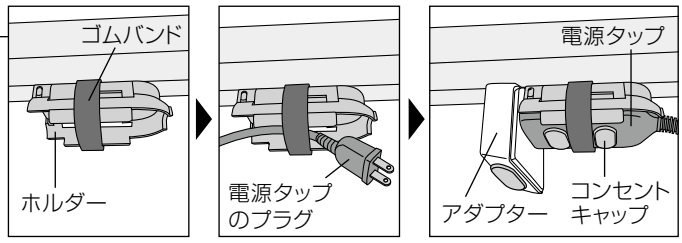
③リモコンのコネクタ（足元側）を、足元側アクチュエーター（高さ調整）に接続します。コネクタの向きに注意して、しっかり奥まで差し込んでください。





④頭側アクチュエーター（角度調整）と足元側アクチュエーター（高さ調整）の電源コードをⒹのフック（黒色）にかけます。

⑤電源タップをプラグ側からをホルダーに通し、電源タップを下図のようにはめ込みます。電源タップの向きに注意してください。



⑥頭側･足元側アクチュエーターの電源プラグを、左図のように電源タップに差し込みます。

⑦電源タップの電源プラグをコンセントに差し込みます。

⑧リモコンを使って動作の確認を行ってください。

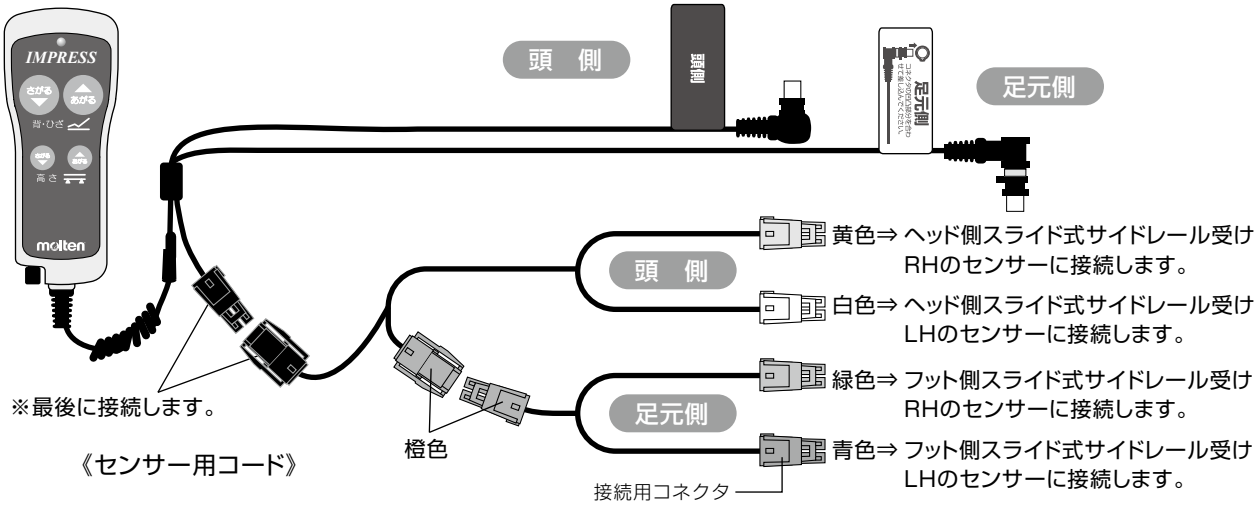
※フレームを分解する場合は、必ずリモコンの配線を外してから分解してください。
コードが切れたり、故障する恐れがあります。

注意

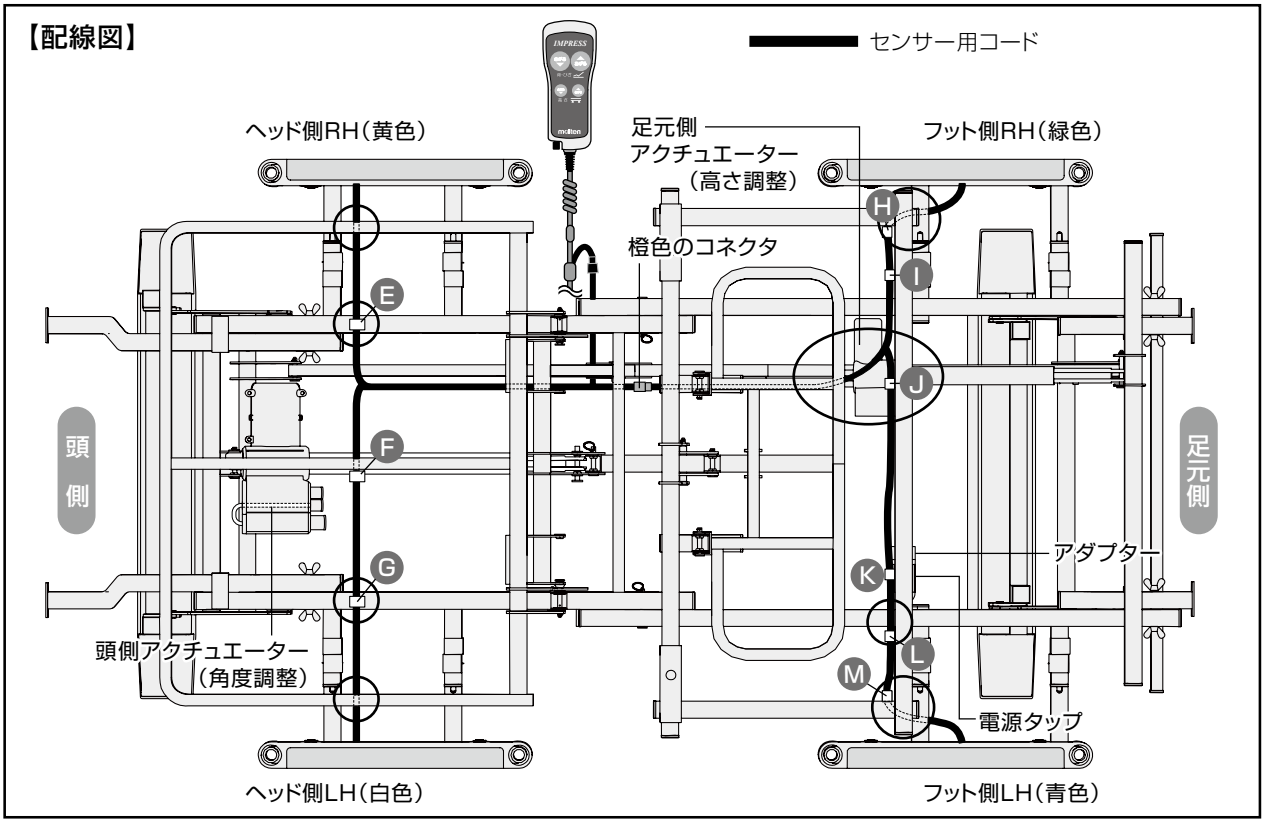
- ●コードがフレームにはさまったり、可動部に引っかからないよう注意してください。
- ●フレーム固定バンドを外してあることを確認してください。
  固定バンドを外さなければベッドは正しく動作しません。
- ●電源タップおよびアダプターに付いているコンセントキャップは取り外さないでください。

●センサー用コードの接続（HSモデル）

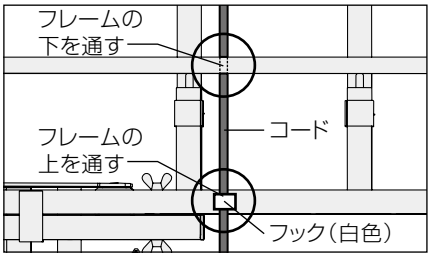
HSモデルの場合は、リモコンと頭側・足元側アクチュエーターを接続した後に、圧迫事故防止センサーを接続します。
リモコンとアクチュエーターの接続手順は、スタンダードモデルと同じです。(P22、P23参照)



※各センサー側にも接続用コネクタがついています。コネクタの色を合わせて接続してください。



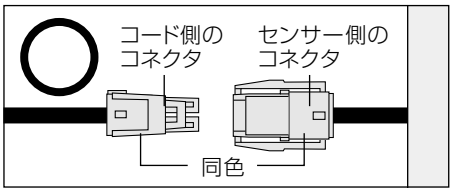
上の【配線図】を見ながら、次の手順でセンサー用コードを接続してください。

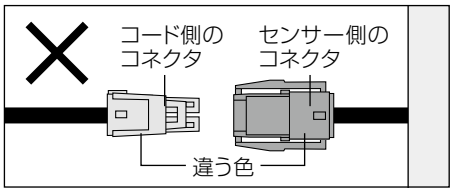


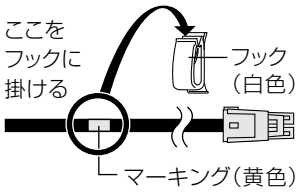
【配線図】の中で、コードを実線で表記している部分はフレームの上を、点線で表記している部分はフレームの下を通していることを表しています。
配線図の通りにコードを通すようにしてください。
〇で囲んである部分は特にご注意ください。
フレームとコードの上・下を間違えて通すと、コードが切れたり破損する恐れがあります。また、背上げフレームやひざ上げフレームの動きを妨げたり、コードの長さが足りなくなる場合があります。

組み立て方法

①センサー用コード(頭側と足元側)と、各センサーを接続します。
センサー用コードをⒺ～Ⓜの位置にあるフック(白色)に掛けてください。
※フック(白色)は、すべてセンサー用コードを掛けるためのフックです。フック(黒色)には掛けないでください。
その場合、コード側と各センサー側のコネクタの色が合うように注意して配線してください。

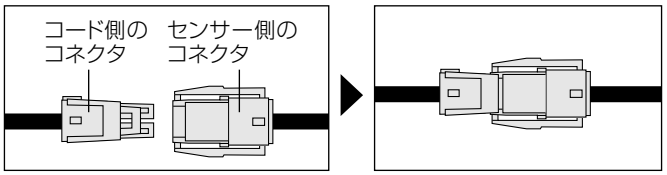




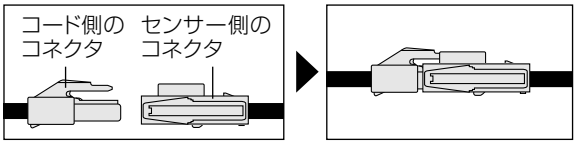


コード側と各センサー側のコネクタの色が同じであることを確認し、コネクタ同士を下図のようにカチッと音がするまで差し込んで接続してください。

●接続用コネクタのつなぎ方

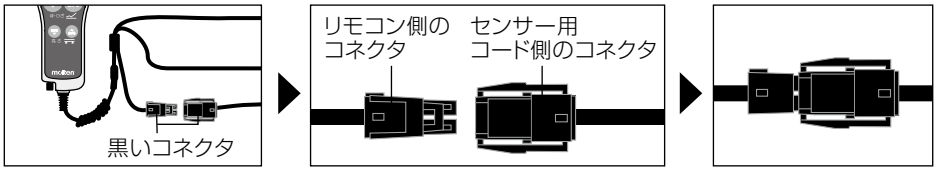


※横からみた図



②頭側と足元側のセンサー用コードを接続します。
頭側と足元側のセンサー用コードに付いている橙色のコネクタを接続します。

③リモコンとセンサー用コードを接続します。



リモコンコードについている黒いコネクタと、センサー用コードの黒いコネクタを接続します。
すべてのセンサーが正しく接続されると、リモコンのランプが緑色に点灯します。ランプが点灯していることを必ず確認してください。点灯していない場合は、リモコンと各センサーの接続が正しくできていない場合がありますので、接続を確認してください。

※センサーに人・物が接触している場合や、リモコンのロックキーを抜いている場合にもランプが消え、高さ調整が行えません。
※センサー接続直後は、リモコンの「あがる」ボタンを押すことで高さ調整が可能となります。
「さがる」ボタンを押しても作動しませんのでご注意ください。

④リモコンを使って、センサーとベッドの高さ調整・角度調整の動作確認を行ってください。
リモコンでベッド高さを下げながら、センサーに接触すると止まることを確認してください。
また、センサーはベッドの高さ調整機能に対して作動しますが、角度調整機能には作動しません。

以上でセンサー用コードの接続は完了です。

※フレームを分解する場合は、必ずリモコン・センサー用コードの配線を外してから分解してください。
コードが切れたり、故障する恐れがあります。

⚠ 警告

●圧迫事故防止センサーは事故を予防するための補助装置です。
圧迫事故防止センサーだけでは事故をすべて防ぐことはできません。ベッドを操作するときは、ベッドから頭・腕・足などが出ていないか、ベッドの下に人・物がないかを確認して操作を行ってください。また、センサーが正しく動作するのを日常点検で確認してください。
●圧迫事故防止センサーやセンサー用コードに水やジュースなどの液体をかけたりこぼしたりしないでください。

注意

●コードがフレームにはさまったり、可動部に引っかからないよう注意してください。
●フレーム固定バンドを外してあることを確認してください。
固定バンドを外さなければベッドは正しく動作しません。
●リモコンのランプが点灯していることを確認してください。点灯していない場合は、リモコンと各センサーの接続が正しくできていない場合がありますので、接続を確認してください。
●センサーがすべて正しく反応することを確認してください。

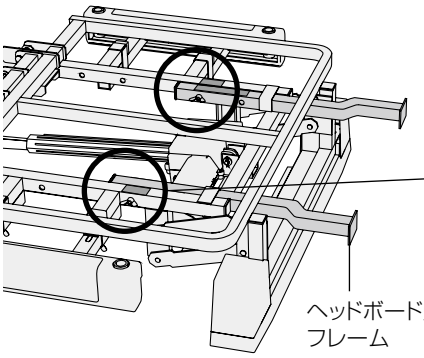
14 ベッドサイズ（長さ）調整

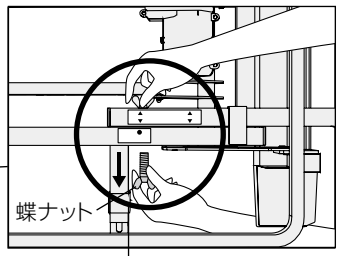
インプレスは介護ベッドを使用する部屋の広さやご本人の身長に合わせて、3段階のサイズ調整ができます。

●対応身長の目安

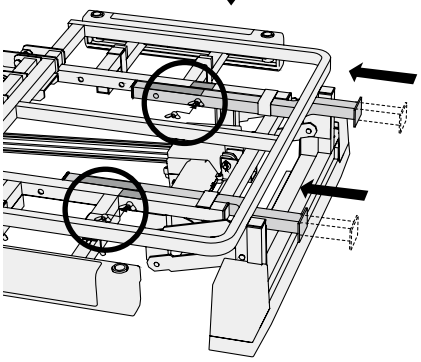
レギュラーサイズ／150～170cm
ショートサイズ／150cm以下
ロングサイズ／170cm以上

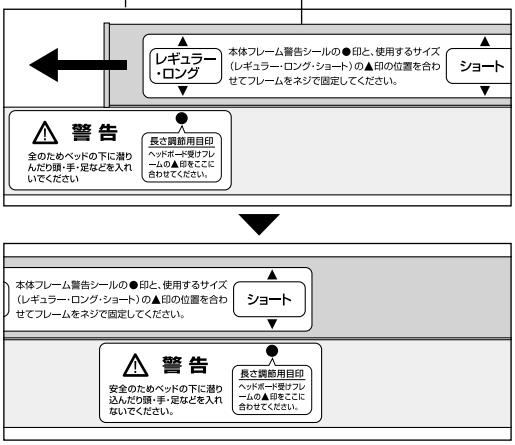
●ショートにする場合





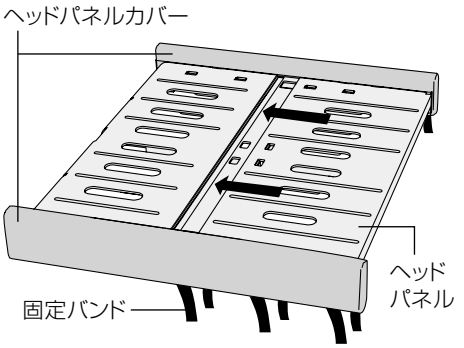
ヘッドボード受けフレームとヘッドフレームを接続している蝶ナットを外してください。





ヘッドボード受けフレームをスライドさせ、『ショート』の▲印を●印に合わせてください。

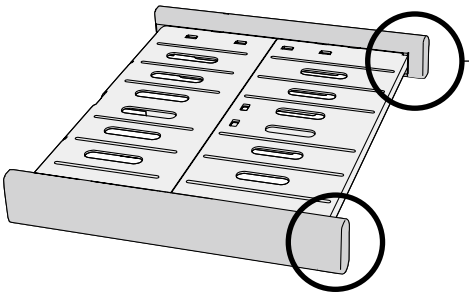
合わせたら、先ほど外した蝶ナットで固定してください。

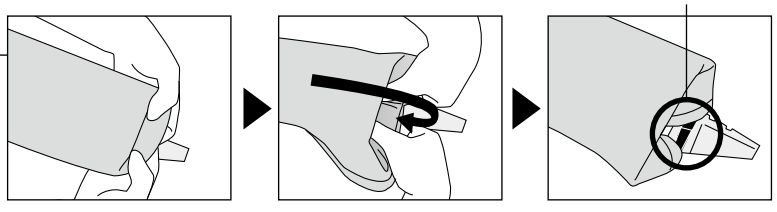


ヘッドパネルカバーの固定バンドを、頭側から左右計6ヶ所外します。ヘッドパネルをツメが穴にはまる位置までスライドさせ、固定バンドをもとに戻します。

パネルを取り付けた後の方が、作業を容易に行うことができます。（P28参照）

余ったカバー端末は下図のように折りたたみ、固定バンドで固定します。以上でフレームの組み立ては完了です。





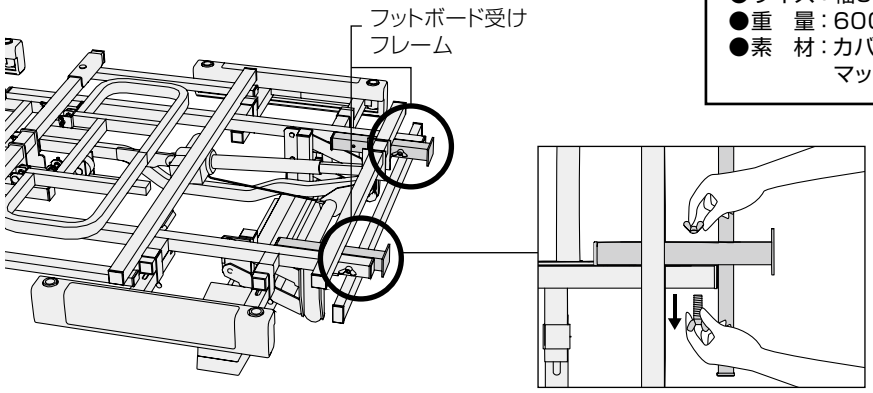
①カバーの先端をへこませるように内側へ潰し、余った部分をすべて折り込みます。

②形を整え、固定バンドで固定します。

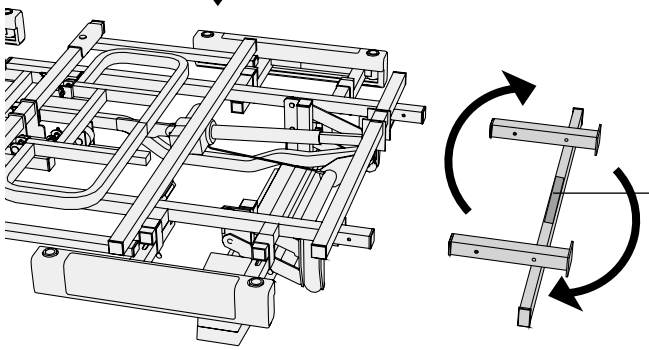
組み立て方法

ベッドをロングで使用する場合、スペーサー（別売）を足元側にご使用ください。
品番　MMP1091
●サイズ：幅91×長さ10×厚さ10cm
●重　量：600g
●素　材：カバー表面＝伸縮性ウレタンフィルム、
　　マットレス＝ウレタンフォーム

●ロングにする場合



フットボード受けフレームと
フットフレームを接続している
蝶ナットを外してください。



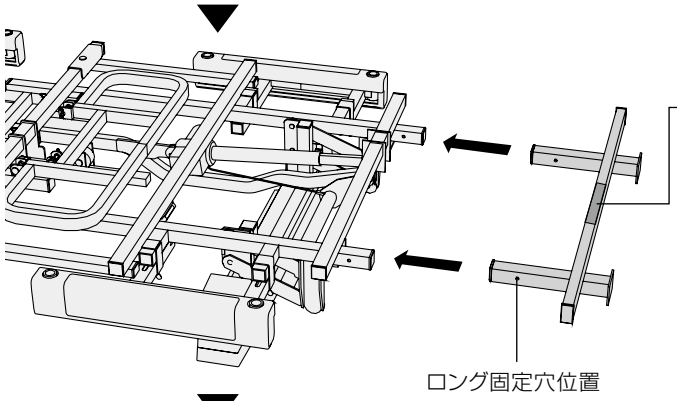
フットボード受けフレームを取り外し、上下反転してください。

反転する前は、下のシールが上面に見えています。

レギュラー・ショート この面を上にして固定してください。
ボトム長さ:202/192cm　※【 ロング 】使用時はフレームを裏返してください。

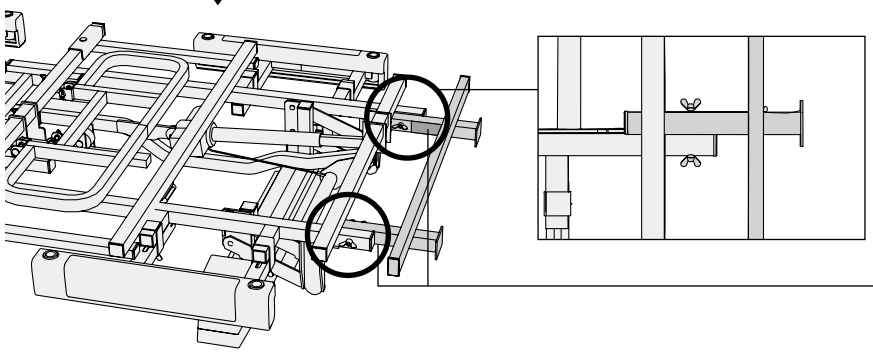
反転後は、下のシールが上面に見えます。

ロング この面を上にして固定してください。
ボトム長さ:212cm　※【 レギュラー・ショート 】使用時はフレームを裏返してください。

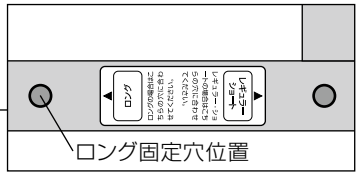


フレームをもとに戻し、ロング固定穴位置に合わせてください。

ロング固定穴位置



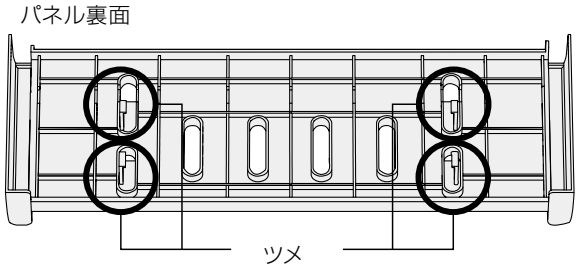
フットボード受けフレームのロング固定穴位置に合わせて蝶ナットで固定してください。



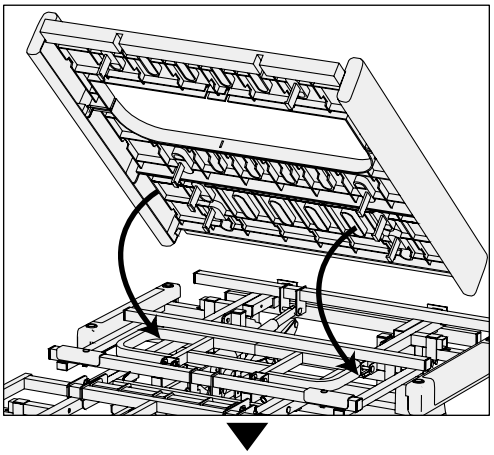
⚠ 注意

●ベッドをロングで使用する場合、足元側のすき間に十分注意してください。
ベッドをロングで使用する場合、パネルの無いすき間が足元側に生じます。
頭・腕・足などはさまないよう十分注意してください。

15 パネルの取り付け



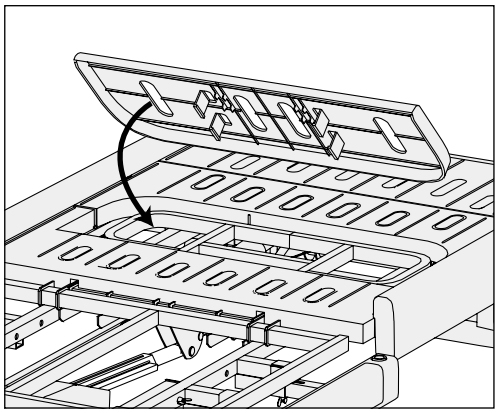
パネルを取り付ける場合は、各パネルに刻印されているモルテンロゴが、足元側から見て正面になるように取り付けてください。
パネル裏面に、フレームに取り付けるためのツメがあります。その左右のツメでフレームに取り付けます。
パネルは、フットパネル→ひざ上げパネル→ヘッドパネルの順に取り付けてください。



●フットパネル

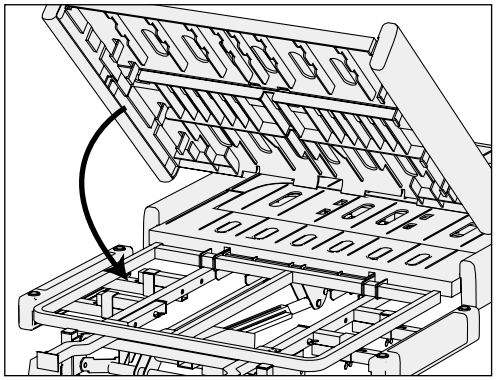
左図のように、フットパネルをフットフレームに取り付けてください。

> ⚠ 注意　●フレームとパネルの間に指をはさまないように注意してください。



●ひざ上げパネル

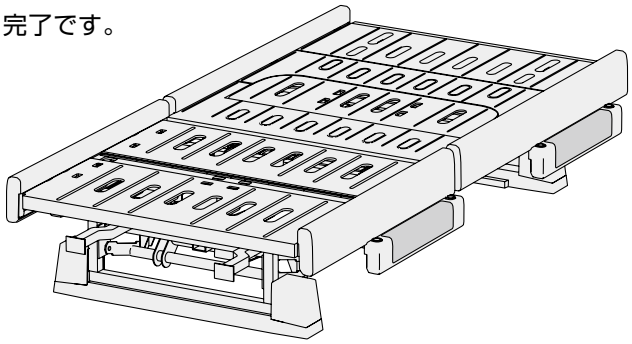
左図のようにひざ上げパネルを取り付けてください。



●ヘッドパネル

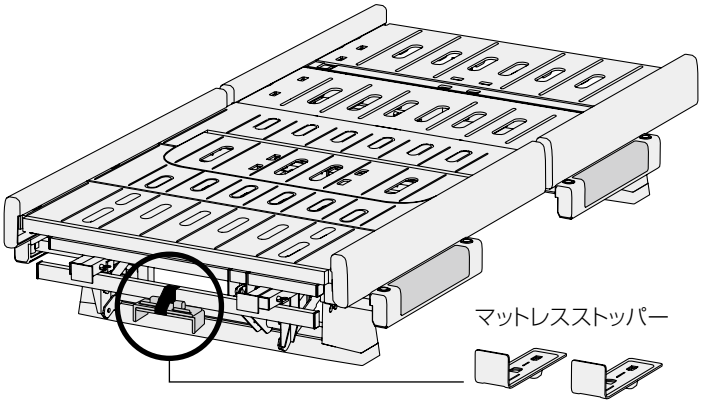
左図のように、ヘッドパネルをヘッドフレームに取り付けてください。

以上でパネルの取り付けは
完了です。

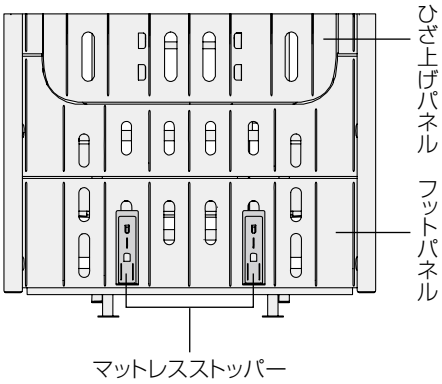


16 マットレスストッパーの取り付け

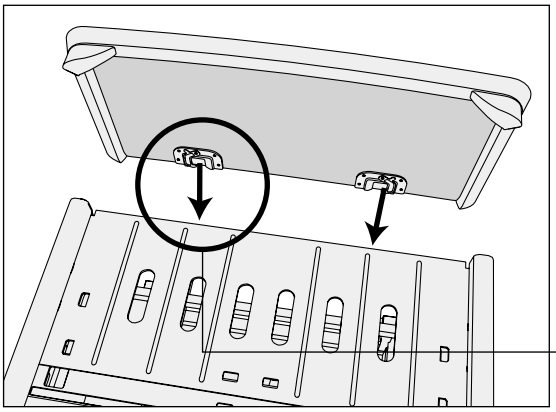
フットフレームについているマットレスストッパーを外してください。
固定バンドはフレームに巻きつけてください。



マットレスストッパーを図の位置に
取り付けてください。

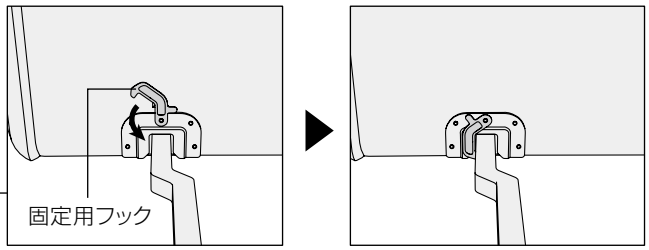


17 ボードの取り付け



●ヘッドボード、フットボードの取り付け

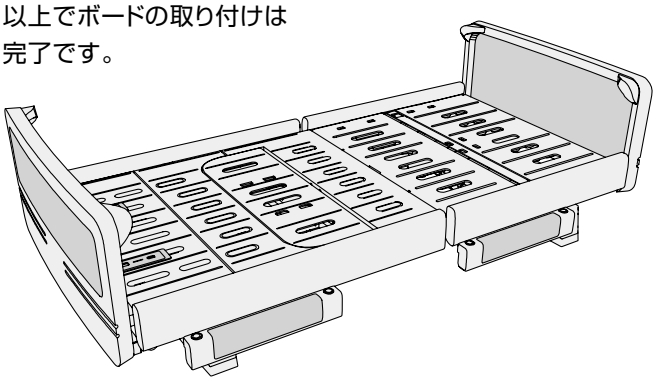
ボードをフレームに差し込み、固定用フックを回転させて
フレームに固定してください。

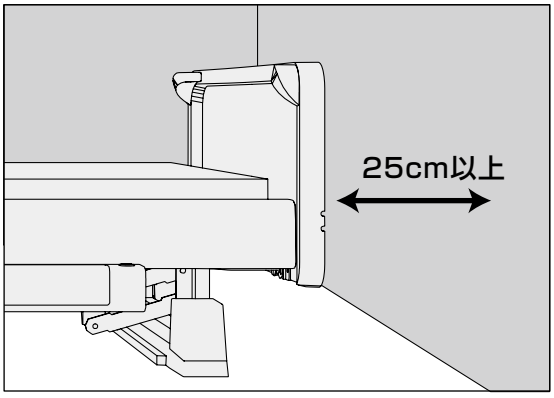


⚠ 警告

●フットボードとヘッドボードを
間違えないように取り付け
てください。

以上でボードの取り付けは
完了です。





壁とヘッドボードとの距離を25cm以上離してください。
高さを最低高から最大高まで上げると、約10cm頭側に動きます。

●ベッド組み立て後の確認事項

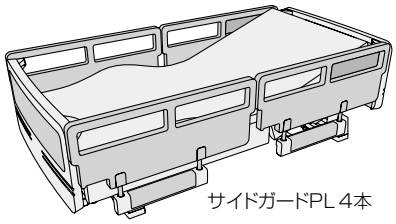
組み立てが完了しましたら、下記の点検項目を確認してください。
またこの点検項目は日常の点検にもお使いください。

	点検項目	確認	
1	**ヘッドフレームとフットフレームの接続** ・ピンと割りピンが取り付けてありますか?(左右2ヶ所)	**YES** □	**NO** P15、P16参照
2	**フレーム固定バンドの確認** ・ヘッドフレームのフレーム固定バンドを外していますか?	**YES** □	**NO** P16参照
3	**ひざ上げリンクロッドの接続** ・ピンと割りピンが取り付けてありますか?	**YES** □	**NO** P17参照
4	**高さ調整ロッドの接続** ・ピンと割りピンが取り付けてありますか?	**YES** □	**NO** P17参照
5	**アクチュエーターの確認(角度調整・高さ調整)** ・リモコンの「あがる」、「さがる」を押して作動しますか? ・異常音や振動がありませんか?	**YES** □	**NO** P11参照
6	**パネルの固定** ・各パネルがきちんと固定されていますか? ・パネルが浮き上がっていませんか?	**YES** □	**NO** P28参照
7	**マットレスストッパーの取り付け** ・所定の位置に正しく取り付けられていますか?	**YES** □	**NO** P29参照
8	**ヘッド・フットボードの固定** ・固定用フックで固定されていますか?	**YES** □	**NO** P29参照
9	**コードの確認** ・可動部やフレームにはさまれていませんか? ・フック(黒色)に正しく取り付けていますか?	**YES** □	**NO** P22、P23、P24参照 コードがはさまれると危険なので フレームの間は通さないでください。
10	**スライド式サイドレール受けの接続** ・スライド式サイドレール受けは正しく接続されていますか? ・ハンガーフック・L型金具・ストッパープレート・蝶ナットが正しく取り付けられていますか? ・付属品が正しく取り付けられますか? ・付属品取り付け用穴は細い方が頭側となっていますか? 【ベッドを上からみた図】 	**YES** □	**NO** P19、P20、P21参照 スライド式サイドレール受けの 接続位置を間違えると 付属品が正しく取り付けられません。
11	**すき間の確認** ・壁とヘッドボードの距離は25cm以上ありますか? ・壁とフットボードの距離は15cm以上ありますか? ・壁とベッドサイドの距離は8cm以内または45cm以上ですか?	**YES** □	**NO** P14参照
12	**サイドレールとベッド用グリップ(手すり)の高さの確認** ・サイドレールとベッド用グリップ(手すり)の高さは、 使用するマットレスに対して適正ですか?	**YES** □	**NO** P31、P32、P33参照
13	**障害物の確認** ・背を上げたままベッドの高さを一番上まで上げたとき、 周辺の物に当たらないように設置してありますか?	**YES** □	**NO** P14参照 ベッドを移動するか障害物を取り除いてください。
14	**周辺機器とのすき間の確認** ・手すりなどの周辺機器は、すき間に十分注意して設置していますか?	**YES** □	**NO** P14参照
15	HSモデルのみ **センサー用コードの確認** ・圧迫事故防止センサーとリモコンをつなぐコードの配線は正しいですか? ・可動部やフレームにはさまれていませんか? ・フック(白色)に正しく取り付けていますか?	**YES** □	**NO** P24、P25参照 コードがはさまれると危険なので フレームの間は通さないでください。
16	HSモデルのみ **圧迫事故防止センサーの確認** ・リモコンのランプが点灯していますか? ・すべてのセンサー(4ヶ所)が反応しますか?	**YES** □	**NO** P11、P24、P25参照

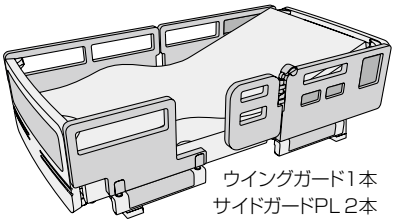
●より安全に使用するためのインプレスと付属品の組み合わせ

●付属品の組み合わせ例

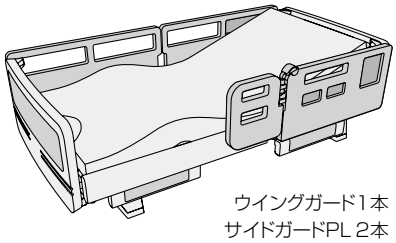
付属品であるサイドレールやベッド用グリップ(手すり)は、ベッド本体(インプレス)の専用として使用してください。



サイドガードPL 4本



ウイングガード1本
サイドガードPL 2本
サイドガードPS 1本



ウイングガード1本
サイドガードPL 2本

上記3パターンは代表的な例です。

インプレスおよび付属品(サイドレール・ベッド用グリップ)は、その他の全ての組み合わせにおいて【JIS規格】に合格しています。

●適合付属品

マットレスの厚さに合わせてサイドレールとベッド用グリップ(手すり)を選定してください。

JIS認証

使用するマットレス厚さ		品番	品名	特長
14cm以下	サイドレール	**MMPR01HBE**	サイドガードPL (ノーマルタイプ ヘッド側)	従来のサイドレールは、格子状の金属製パイプが主流でした。インプレス付属品のサイドレールは、はさみ込み対策としてリスク分析を行い、樹脂製ボード(板状)により、安全性を向上しています。 **※ウイングガードを使用する場合、サイドガードPLをフット側に使用しないでください。** **※サイドガードのHタイプを使用する場合、ウイングガードもHタイプを使用して高さを揃えてください。** **※厚さが15cm～20cmのマットレスを使用する場合、Hタイプのサイドレールとベッド用グリップ(手すり)を使用してください。**
		MMPR01FBE	サイドガードPL (ノーマルタイプ フット側)	
		MMPR02BE	サイドガードPS(ノーマルタイプ)	
		MTUT10DB	サイドレールA	
15cm以上 20cm以下		**MMPR01HBEH**	サイドガードPL(Hタイプ ヘッド側)	
		MMPR01FBEH	サイドガードPL(Hタイプ フット側)	
		MMPR02BEH	サイドガードPS(Hタイプ)	
14cm以下	ベッド用グリップ(手すり)	**MMPR03BE**	ウイングガード(ノーマルタイプ)	●ウイングガードを開いたときは手すりとして、閉じた時はサイドレールとして使います。 ●すき間を防止するためのカバーにより、腕が入らず安全に使用できます。 ●レバー形状は、衣服の袖口が引っ掛かりにくい安全設計です。 **※ウイングガードを使用する場合、サイドガードPLをフット側に使用しないでください。** **※ウイングガードのHタイプを使用する場合、サイドガードもHタイプを使用して高さを揃えてください。** **※厚さが15cm～20cmのマットレスを使用する場合、Hタイプのサイドレールとベッド用グリップ(手すり)を使用してください。**
		MMPR08BE	ウイングガードS(ノーマルタイプ)	
15cm以上 20cm以下		**MMPR03HBEH**	ウイングガード(Hタイプ)	
		MMPR03FBEH	ウイングガードS(Hタイプ)	
――	テーブル	**MMPR07BE**	オーバーテーブル	ベッド上で食事などを行う場合に使用します。
――	キャスター	**MMPR06BE**	キャスターセット	ベッド移動の補助として使用します。
――	脚座	**MFP-BE** **MFP-GR** **MFPC-BR**	エフプロテクター	床・畳のキズやへこみを防止します。

※インプレスはベッドの長さを〈レギュラー〉〈ショート〉〈ロング〉の3サイズに調整ができます。(部品交換や工具は一切不要)

※安全規格上、『ベッド本体』、『サイドレール』、『ベッド用グリップ(手すり)』との組み合わせで発生するすき間を全て対策しなくてはなりません。

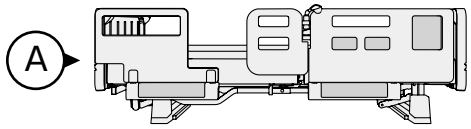
※サイドガードP、ウイングガードの『ノーマルタイプ』と『Hタイプ』を組み合わせて使用しないでください。ケガをする恐れがあります。

⚠ 警告　●上記以外の付属品は使用しないでください。

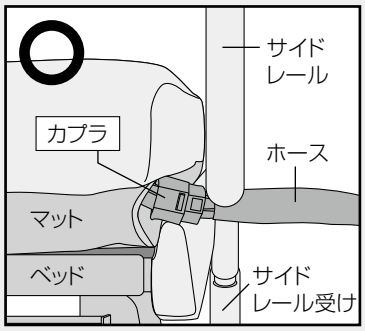
付属品の適合

●マットレス使用時の注意点

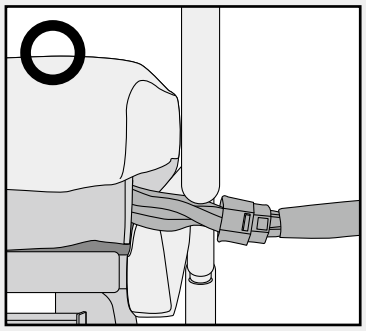
圧切替型マットレスを使用する場合は、マットレスとポンプをつなぐカプラがサイドレールにはさまれないよう、注意して設置してください。



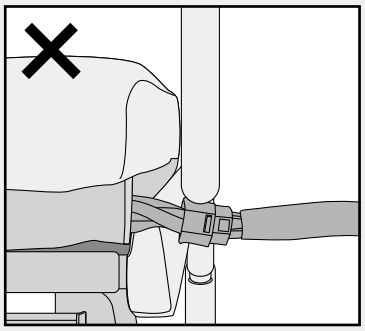
下図はAの視点から見た説明です。



▲カプラがサイドレールより内側に入っている。



▲カプラがサイドレールより外側に出ている。



▲カプラがサイドレールの真下にはさまっている。

マットレスの適合

●適合マットレス

※サイドガード、ウイングガードの対応範囲を超える厚さのマットレスを使用した場合、ベッドから転落する恐れがあります。対応するマットレス厚さについては、P31「適合付属品」をご参照ください。

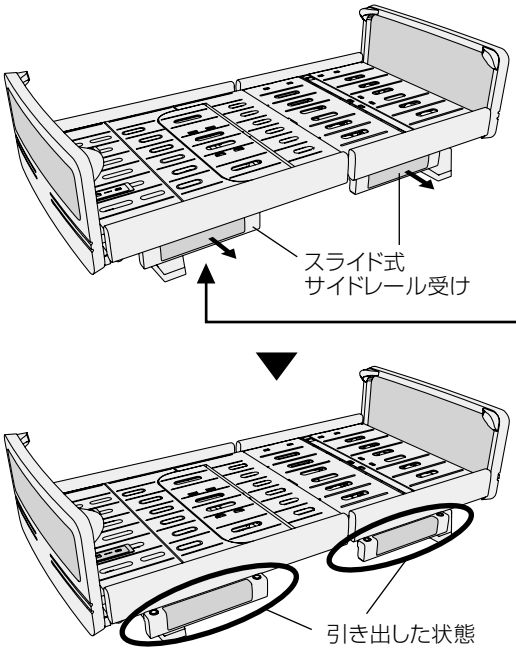
品　番	品　名	特　長
MGRA91 **MGRA91S** **MGRASL91** **MGRASL91S**	グランデ 厚さ:18cm グランデスリム 厚さ:14cm	より安全で最適な床ズレ対策を実現する進化した高機能エアマットレス ●身体状況の判定結果をポンプに入力すると、ご本人に最適な条件を自動的に設定するアセスメント&フィッティングモードにより、安全·安心な環境を提供します。 ●介護状況に合わせて一時的に設定できる、リハビリモード·背上げモード·強力除湿モードや、誤操作防止のためのボタンロック機能を搭載しています。 ●マイクロセルとフィッティング層の2層で交互に圧切替を行うダブル圧切替方式により、優れた除圧性能を発揮し、局所の圧迫力対策に効果的です。 ●優れた体圧分散性能を実現する18cmの厚さと、安定感に優れベッドからの転落対策が可能な14cmの厚さ、2つのバージョンから選択が可能です。
MCRD91A **MCRDF91A**	クレイド (ノーマルタイプ) クレイド (ひざ上げタイプ) 厚さ:16cm	さまざまな身体状況への対応を追求した高機能·多目的エアマットレス ●設定した体位変換と体位保持を自動で行います。 ●自動体位変換により、沈下性肺炎や関節拘縮の予防に効果を発揮します。 ●人による体位変換のばらつきを解消し、安定した体位変換が可能です。 ●深夜の体位変換を自動にすることで、ご本人の安眠を確保します。 ●ひざ下支持エアバッグにより、下肢拘縮の方でも安定感のある自動体位変換が可能です。 (ひざ上げタイプのみ)

マットレスの適合

品　番	品　名	特　長
MADV91A **MADV91SA**	アドバン （ベンチレーションタイプ） 厚さ:16cm	高度床ずれ危険要因をもつ方のために生まれた高機能エアマットレス ●独立3層式バンプ構造により、寝返りや体位変換のしやすさと優れた体圧分散性能の両立を実現しました。 ●体重設定不要で、常に安全な使用環境を提供します。 ●身体状況に合わせた動作切り替え（圧切替型／静止型）がワンタッチで素早くできます。 ●寝床内のムレ環境を改善する空気循環式の除湿機能付き。 ●衛生面（感染）やムレに配慮した透湿&防水性のカバー。
MPRV91	プライムレボ （オーバーレイタイプ） 厚さ:10cm +使用されるマットの厚さ	ツイストライン構造で縦・横方向の同時圧切替を可能にした高機能エアマットレス ●独立2層式構造+ツイストライン構造により、寝返りや体位変換のしやすさと優れた除圧性能の両立を実現しました。 ●体重設定不要で、常に安全な使用環境を提供します。 ●身体状況に合わせた動作切り替え（圧切替型／静止型）がワンタッチで素早くできます。 ●寝床内のムレ環境を改善する空気循環式の除湿機能付き。 ●衛生面（感染）やムレに配慮した透湿&防水性のカバー。
MNS91 **MNS91S**	ナッソー 厚さ:13cm	より快適で安全なベッド上での生活を実現する進化した静止型マットレス ●かたさの異なる高密度ウレタンフォームを3層構造にすることで、各種体位での優れた体圧分散性能と端座位やベッド背上げでの座位時の安定感を向上しています。 ●ベッド背上げの動きに合わせて3層構造のウレタンフォームがスライドすることで、背上げ時に背中にかかる苦しさを低減し、楽な姿勢を確保します。 ●へたりにくい高密度中～高反発系ウレタンフォームを使用しているので、優れた体圧分散性能が長く続きます。 ●汚れたときは清拭で対応可能な、衛生面と感染対策を考慮した防水カバーです。
MNC91 **MNC91S**	ナッキー 厚さ:13cm	長時間維持する優れた体圧分散性能を持つ3層式高密度ウレタンフォームマットレス ●かたさの異なる高密度ウレタンフォームを3層構造にすることで、各種体位での優れた体圧分散性能と端座位やベッド背上げでの座位時の安定感を向上しています。 ●中間層の両側10cm幅にかためのウレタンフォームを設けることで、端座位時の安定感を更に向上し、ずり落ちを対策しています。 ●へたりにくい高密度中～高反発系ウレタンフォームを使用しているので、優れた体圧分散性能が長く続きます。 ●汚れたときは清拭で対応可能な、衛生面と感染対策を考慮した防水カバーです。
MPX1091 **MPXV1091**	ピュアレックス10 （防水・清拭タイプ） ピュアレックス10 （通気・洗浄タイプ） 厚さ:10cm	圧迫力とズレ力対策のためのゲル+ウレタンフォームマットレス ●伸縮性やフィッティング性に優れた素材で圧迫力やずれ力を低減し、皮膚感覚で身体に優しい寝心地を提供します。 ●ふわふわしすぎない適度なかたさで寝返りがしやすく、マットレス上での端座位も安定します。 ●ローテーションや部分交換ができる3分割構造なので、長持ちします。 ●衛生面と感染対策を考慮した防水加工。マットレスが汚れたときには清拭で対応可能です。
MHA1091 **MHA1091S** **MHAV1091** **MHAV1091S**	ソフィア （防水・清拭タイプ） ソフィア （通気・洗浄タイプ） 厚さ:10cm	お好みのかたさが選べるリバーシブル仕様のウレタンフォームマットレス ●身体状況や好みに応じて、オモテ面「少し柔らかめ/スリット形状」とウラ面「ふつう」を使い分けることができます。 ●ふわふわしすぎない適度なかたさで寝返りがしやすく、マットレス上での端座位も安定します。 ●長期間使用による“へたり”が発生しにくい中密度高反発ウレタンフォームを使用しているので、長持ちします。 ●衛生面と感染対策を考慮した防水カバー。マットレスが汚れたときには清拭で対応可能です。

サイドレールの取り付け方法

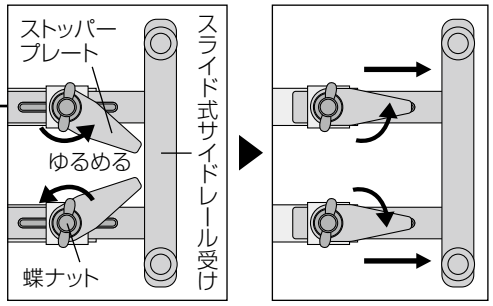
●スライド式サイドレール受けの調整方法



ベッドを組み立てた後でサイドレール（付属品）を取り付ける場合は、以下の手順でスライド式サイドレール受けを引き出してください。

フット側スライド式サイドレール受けを固定している蝶ナット（2ヶ所）をゆるめ、手前に引き出してください。

【ベッドの下から見た図】

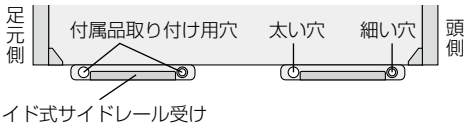


いっぱいまで引き出したら、ストッパープレートの返しを溝にはめ、先ほどゆるめたネジ（2ヶ所）をしめ、スライド式サイドレール受けが動かないように固定してください。

⚠ 注意

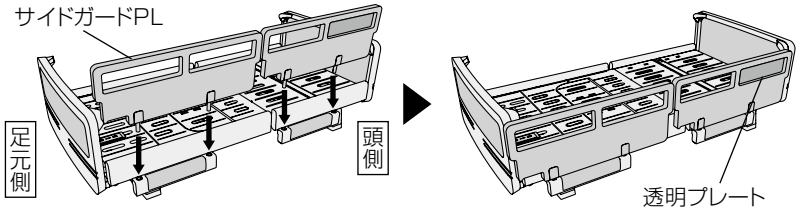
●スライド式サイドレール受けを持ってベッドを移動させないでください。指定の位置を持って移動させてください。HSモデルは、圧迫事故防止センサーが破損する恐れがあります。

【ベッドを上からみた図】



付属品取り付け用の、細い穴が頭側となっていることを確認してください。

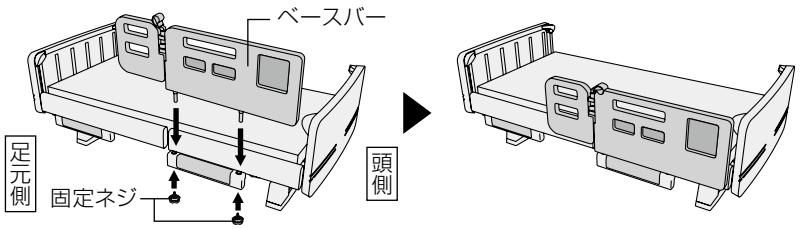
●サイドガードPL、サイドガードPS、サイドレールAの取り付け方法



引き出したスライド式サイドレール受けに、サイドガードPLを差し込みます。
図のように差し込んで完成です。

※サイドガードPS、サイドレールAの場合も同様に差し込んでください。
※透明プレートがついているヘッド側サイドガードPLは、必ずヘッド側スライド式サイドレール受けに取り付けてください。その際、透明プレートが頭側にくるように取り付けてください。

●ウイングガードの取り付け方法（ウイングガードSも同様に取り付けます。）



ウイングガードのベースバーをヘッド側スライド式サイドレール受けに取り付けます。
奥まで差し込み、下から固定ネジをしめて取り付けてください。

※ウイングガードは必ずヘッド側スライド式サイドレールに取り付けてください。
※頭側･足元側を確認し、正しい向きで設置してください。逆向きに取り付けることはできません。

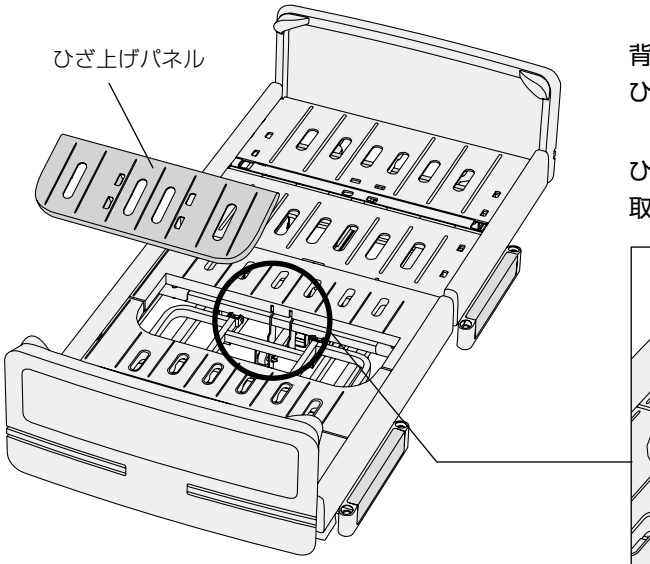
※使用方法の詳細は、各取扱説明書でご確認ください。

ひざ上げ連動の解除方法

インプレスは背上げひざ上げ連動を、ひざ上げフレームのローラーを外すことにより解除することができます。
ご本人の状態に合わせて使い分けてください。

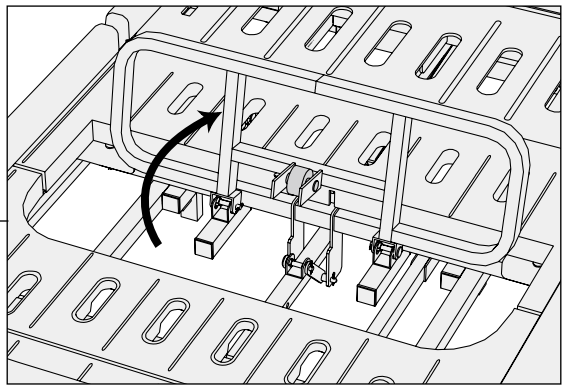
※ラジオペンチ、プライヤーなどが必要です。工具は付属していません。

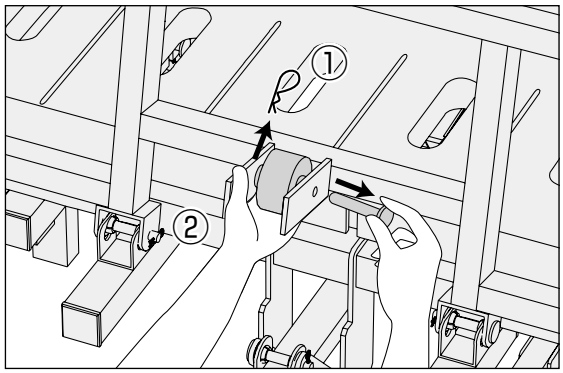
※この作業は販売店の方に依頼されることをお勧めいたします。



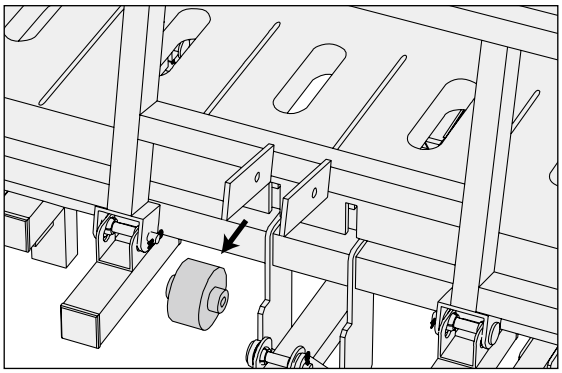
背上げをフラットにしてください。
ひざ上げパネルを外してください。

ひざ上げフレームをはね上げることでローラーの取り外し作業が行いやすくなります。

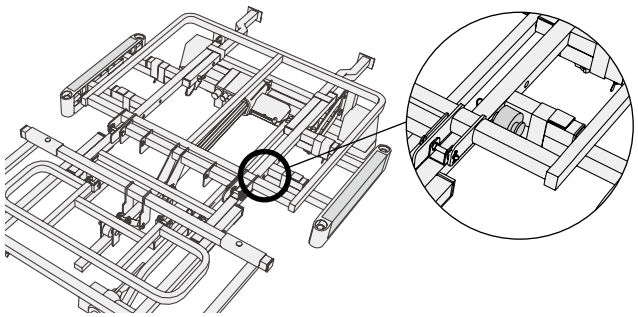




ひざ上げフレームとローラーを接続しているななめ割りピンを外し(①)、ローラーを手で持ちながら(②)ピンを外してください。



ローラーを取り外してください。



※取り外したローラーとピン、割りピンは、背上げ・ひざ上げを連動させたい場合に必要となりますので紛失しないよう大切に保管してください。
(外したローラーとピン、割りピンを左図の位置に取り付けることができます。)

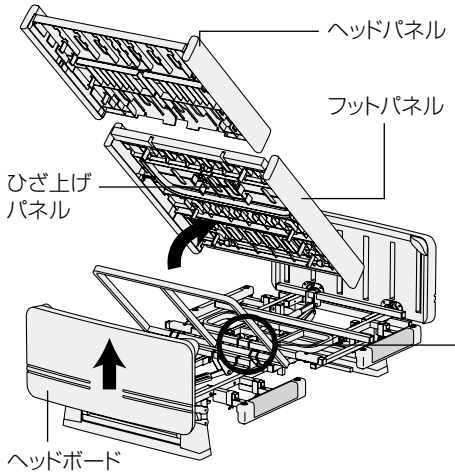
※背上げと連動する状態に戻す場合は、上記解除方法と逆の手順でローラーを取り付けてください。

緊急時の背下げ方法

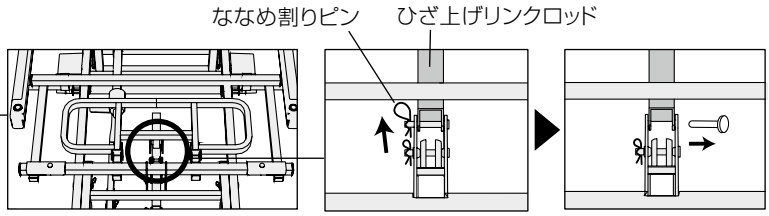
停電時や故障などで背下げできないときは、以下の方法で背下げしてください。

※ラジオペンチ、プライヤーなどが必要です。工具は付属していません。

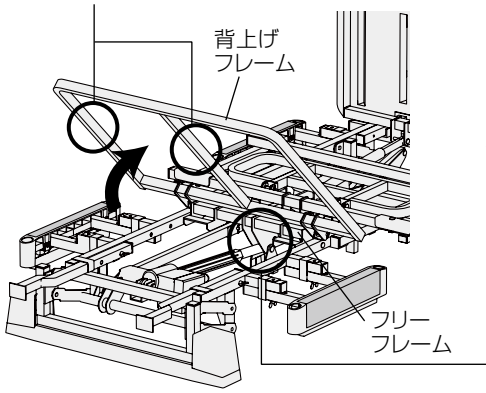
※この作業は必ず2名以上で行ってください。作業する場合は、電源プラグを必ず抜いてください。



ご本人と寝具･マットレスをベッドから移動させてください。
ヘッドボード、ヘッドパネル、フットパネル、ひざ上げパネルを取り外してください。ひざ上げリンクロッドとフリーフレームを接続しているななめ割りピンを外してください。

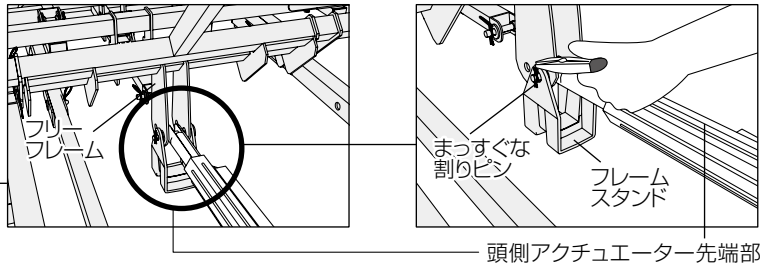


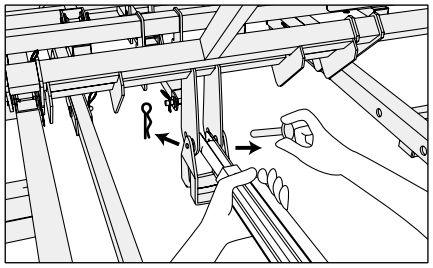
※この部分を持って支えてください。



1人の方が背上げフレームを手で持ち上げ、支えてください。
もう1人の方が頭側アクチュエーター（角度調整）先端部とフリーフレーム･フレームスタンドを固定しているまっすぐな割りピンをラジオペンチなどで外してください。

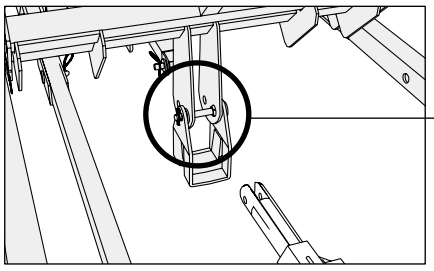
※この作業には、ラジオペンチ、プライヤーなどが必要です。





頭側アクチュエーター（角度調整）を手で持ちながらピンを外してください。
ピンを外すと、フリーフレーム･フレームスタンドとひざ上げフレームが自由に動くようになります。

※背上げフレームの角度によっては、ピンを外すと上記部分が回転してきますので、フリーフレームはしっかりと支えてください。



注意

●抜いたピンとまっすぐな割りピンは紛失防止のため、フレームスタンドに取り付けてください。

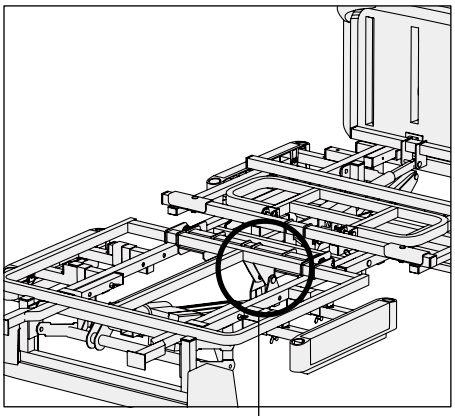
背上げフレームをゆっくりと降ろしてください。
ヘッドボード、ヘッドパネル、フットパネル、ひざ上げパネルを元のように取り付けてください。

背上げのもどし方

停電が復旧したら、以下の手順で背上げを元の状態にもどしてください。

※ラジオペンチ、プライヤーなどが必要です。工具は付属していません。

※この作業をする場合は、電源プラグを必ず抜いてください。

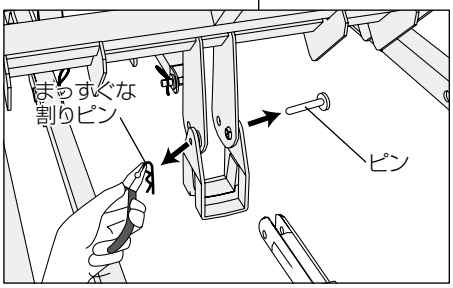


注意

●背上げを戻すとき、ベッドの高さをリモコンで一番下まで下げてください。下がりきっていない場合は接続するロッドが届きません。

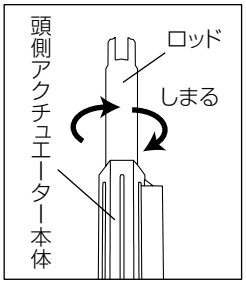
ご本人と寝具･マットレスをベッドから移動させてください。
ヘッドボード、ヘッドパネル、フットパネル、ひざ上げパネルを取り外してください。

リモコンの「背･ひざ」の『さがる』ボタンを押し続けてロッドが一番伸びた状態にしてください。



フリーフレーム･フレームスタンドについているまっすぐな割りピンとピンを外してください。

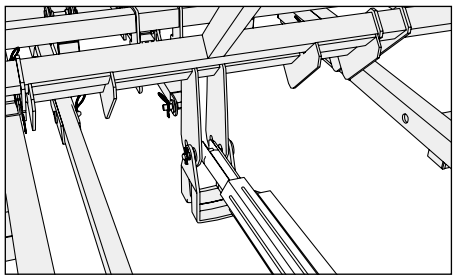
※この作業には、ラジオペンチ、プライヤーなどが必要です。



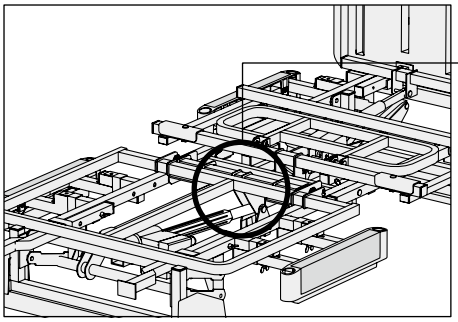
接続する前に頭側アクチュエーター（角度調整）のロッドを左図の矢印の方向にしめてください。
（逆ネジです）

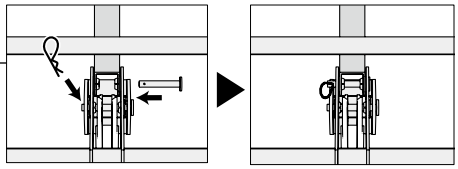
⚠ 警告

●きちんとしまっていることを確認してください。ゆるんだまま接続するとロッドが外れ、ケガや事故の原因となります。



ピンとまっすぐな割りピンで、フリーフレーム･フレームスタンドと頭側アクチュエーター（角度調整）を接続してください。





フリーフレームとひざ上げリンクロッドを接続してください。

ヘッドボード、ヘッドパネル、フットパネル、ひざ上げパネルを元のように取り付けてください。

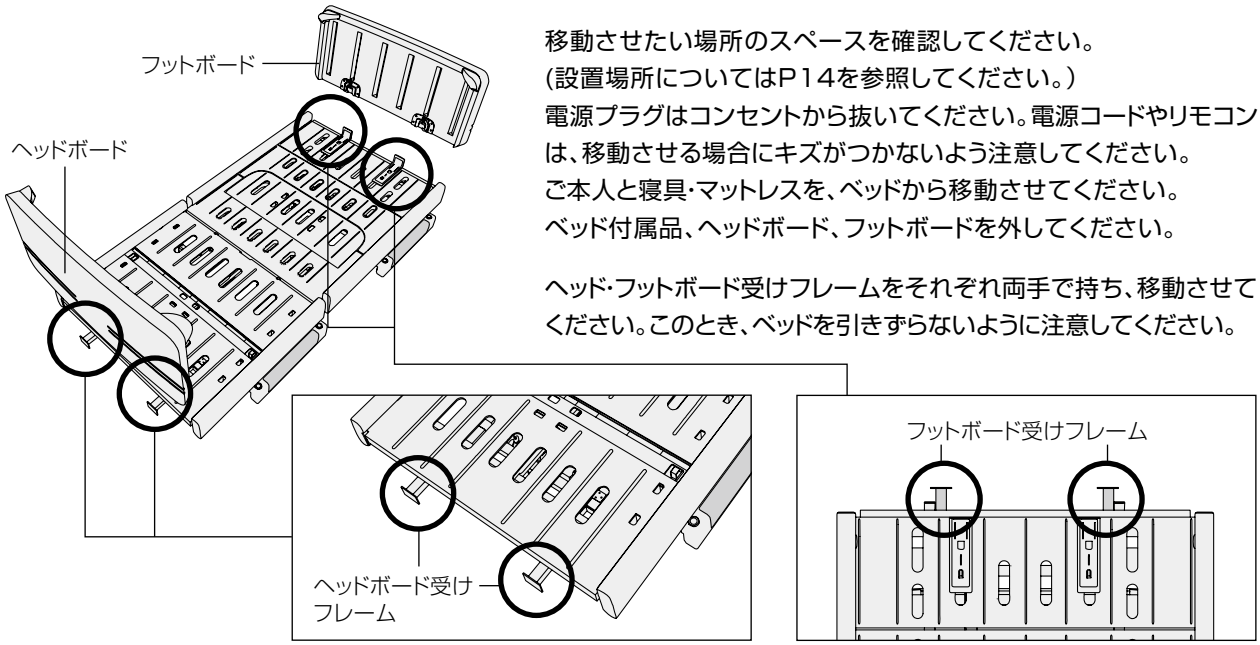
以上で接続は完了です。

※組み立て後はベッド組み立て後の確認事項（P30）でご確認ください。

組み立て後の移動･高さ設定変更

ベッドを組み立て後、移動させたい場合は以下の方法で移動させてください。

※この作業は必ず2名以上で行ってください。作業する場合は、電源プラグを必ず抜いてください。



移動させたい場所のスペースを確認してください。
(設置場所についてはP14を参照してください。)
電源プラグはコンセントから抜いてください。電源コードやリモコンは、移動させる場合にキズがつかないよう注意してください。
ご本人と寝具･マットレスを、ベッドから移動させてください。
ベッド付属品、ヘッドボード、フットボードを外してください。

ヘッド･フットボード受けフレームをそれぞれ両手で持ち、移動させてください。このとき、ベッドを引きずらないように注意してください。

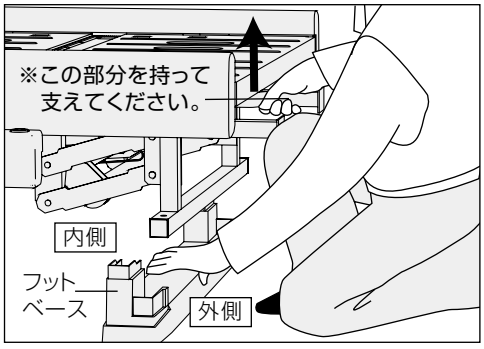
⚠ 警告

- ●ボード受けフレーム以外の部分は持たないでください。部品が外れてケガをする恐れがあります。
- ●必ず持ち上げて移動してください。引きずるとフットベースが外れる場合があります。

⚠ 注意

- ●スライド式サイドレール受けを持って移動させないでください。圧迫事故防止センサーが壊れる恐れがあります。

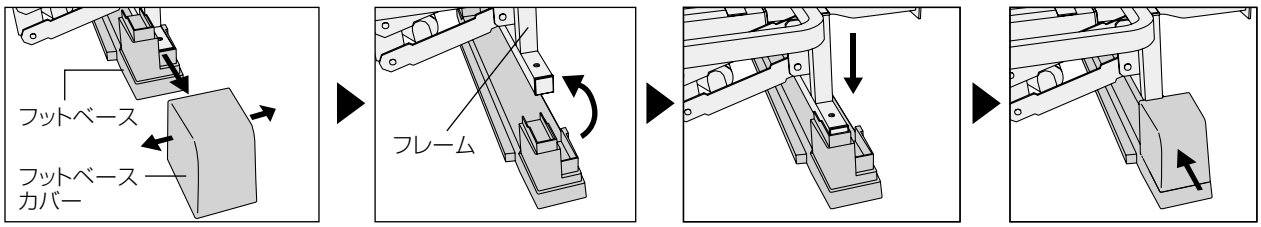
ベッドを組み立て後、高さ設定を変更したい場合は、以下の方法で調整してください。



フットベースカバーを外してください。
ボード受けフレームを片手で持ち上げ、もう片方の手で
フットベースを外し、高さ設定を変更してください。
もう一方のフットベースも同様に高さを調整してください。

⚠ 警告

- ●重量物のため、手足をはさまないよう注意して作業を行ってください。
- ●必ずフットベース所定の位置に、フレームを設置してください。



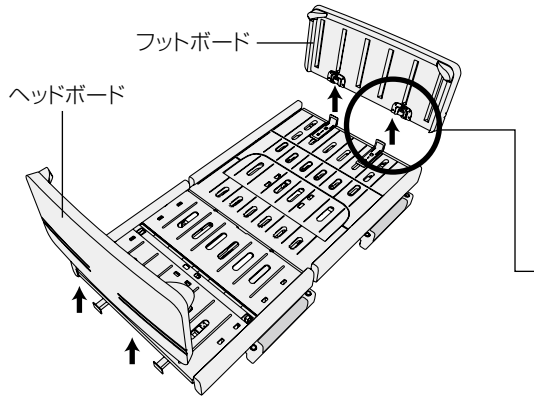
①フットベースカバーを広げながら手前に外します。
②フレームを持ち上げます。
③フットベースの高い設定の溝にフレームを設置します。
④フットベースカバーをかぶせます。

分解方法

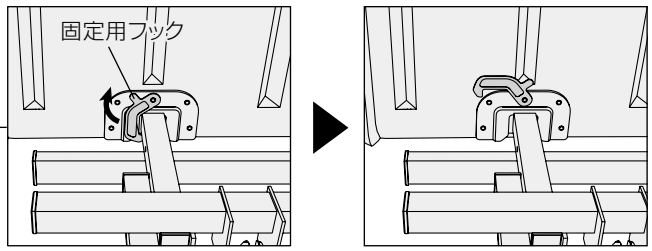
※この作業は販売店の方に依頼されることをお勧めいたします。
分解するときは、リモコンでベッドの高さを一番低い位置にし、電源プラグをコンセントから抜いた状態で作業を行ってください。
部品の破損や部品が落下してケガをする恐れがあります。

※キャスターを使用の場合、この時点では取り外さないでください。キャスターは最後に取り外します。(P44参照)
また、分解作業はキャスターをSTOP(固定)の状態にして行ってください。

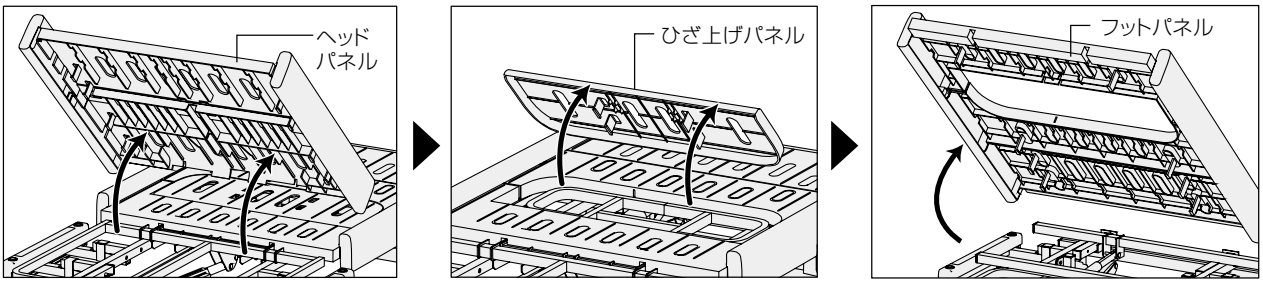
1 ボードの取り外し



●ヘッドボード、フットボードの取り外し
固定用フックを回転させて、ボードをフレームから外します。

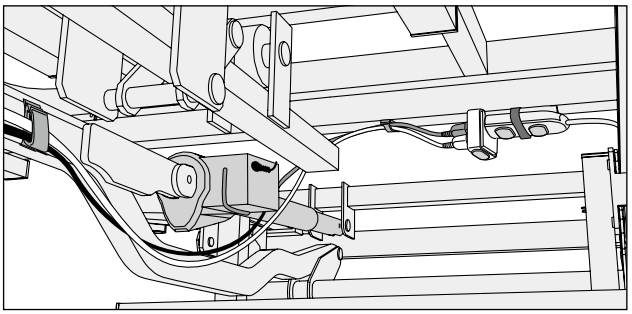


2 パネルの取り外し



ヘッドパネル→ひざ上げパネル→フットパネルの順に外してください。内側を持ち上げながら外すと、簡単に外れます。

3 リモコンコードと電源コードの取り外し

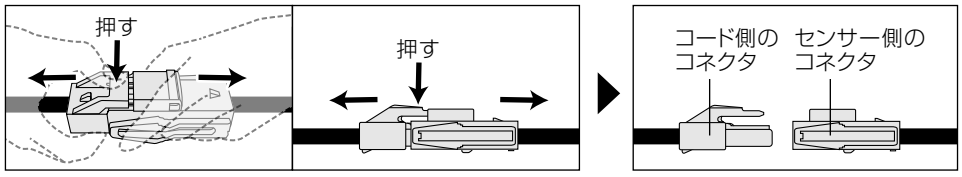


リモコンコードと頭側･足元側アクチュエーターの電源コードを外します。コードを傷つけないように注意して、フックから外してください。

※配線とフックの位置は、P22、P24の配線図でご確認ください。

※必ず、フレームを分解する前にリモコンコードと電源コードを外してください。(P23参照)
HSモデルはセンサー用コードも外してください。(P25参照)

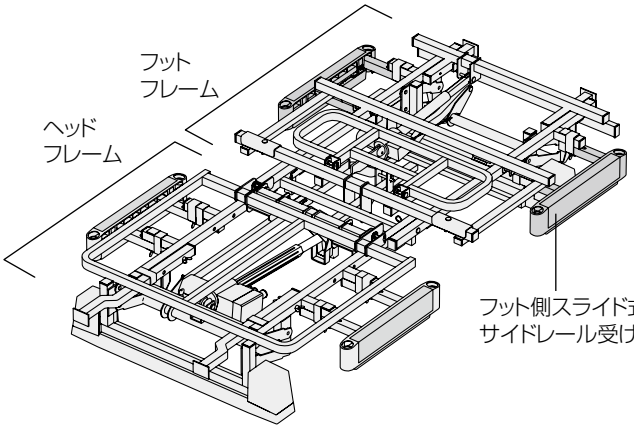
●接続用コネクタの外し方 HSモデルのみ



コード側のコネクタの矢印の部分を強く押しながら、左右に引っ張って外してください。

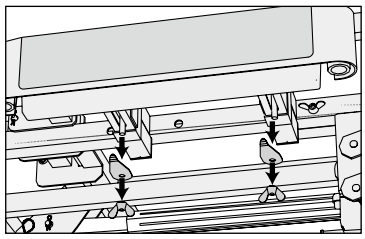
※分解時に抜くピンは銀色で、割りピンが斜めになっています。
これ以外の黒いピンは外さないでください。

4 フット側スライド式サイドレール受けの取り外し

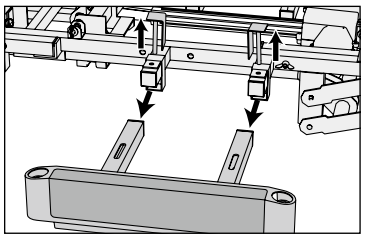


フット側スライド式サイドレール受けを取り外します。

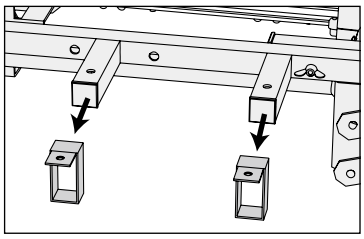
外したハンガーフック･L字金具･ストッパープレート･蝶ナットは、紛失防止のため、スライド式サイドレール受けに取り付けてください。



蝶ナットをゆるめてストッパープレートを外します。

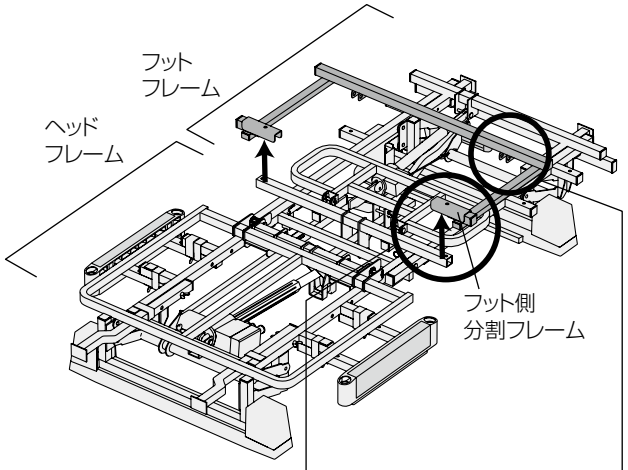


L型金具を引き抜き、スライド式サイドレール受けを外します。



ハンガーフックをフレームから取り外します。

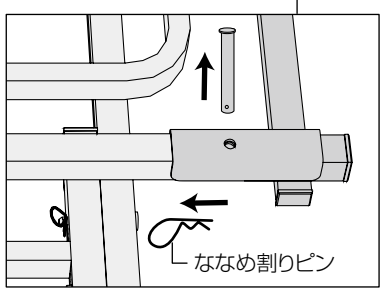
5 フット側分割フレームの取り外し

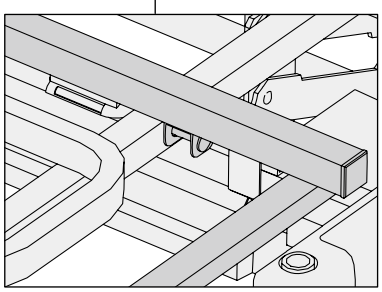


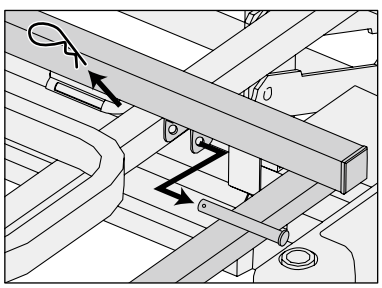
フット側分割フレームを取り外します。

フットフレームとフット側分割フレームを接続しているピンとななめ割りピンを外してください。

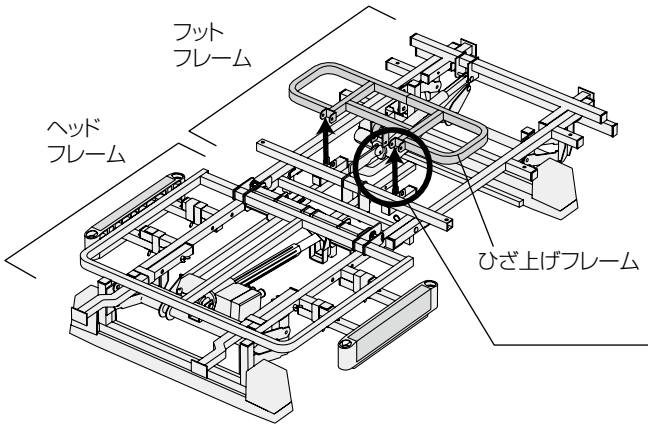
外したピンは紛失防止のため、フット側分割フレームに取り付けてください。





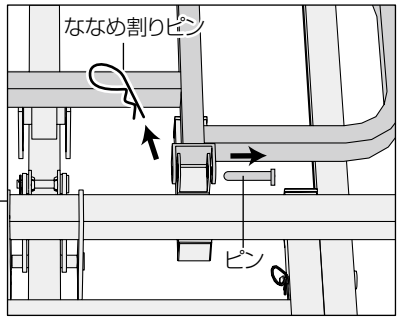


6 ひざ上げフレームの取り外し



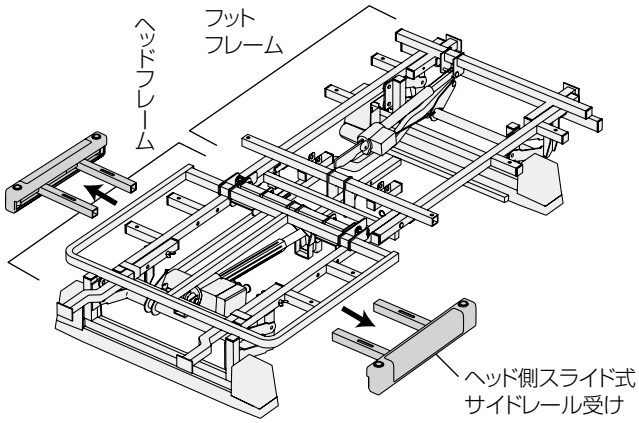
ひざ上げフレームを取り外します。

フットフレームとひざ上げフレームを接続しているピンとななめ割りピンを外し、ひざ上げフレームを外します。



外したピンは紛失防止のため、
ひざ上げフレームに取り付けてください。

7 ヘッド側スライド式サイドレール受けの取り外し

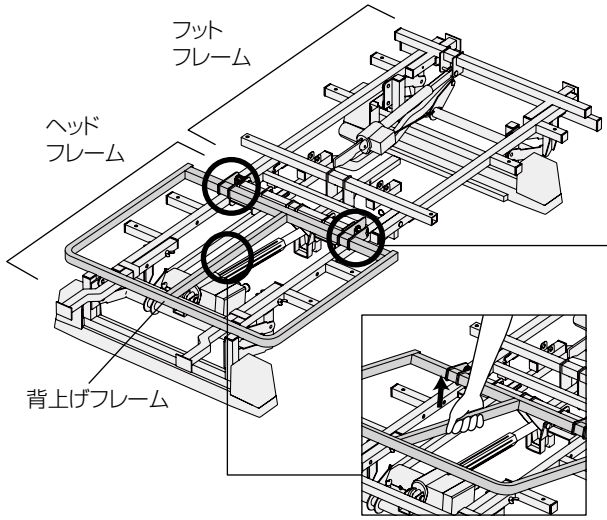


ヘッド側スライド式サイドレール受けを取り外します。

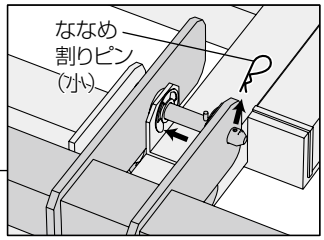
フット側スライド式サイドレール受けと同様に取り外します。(P40参照)

外したL字ネジ・L字金具・蝶ナットは紛失防止のため、ヘッド側スライド式サイドレール受けに取り付けてください。

8 背上げフレームの取り外し



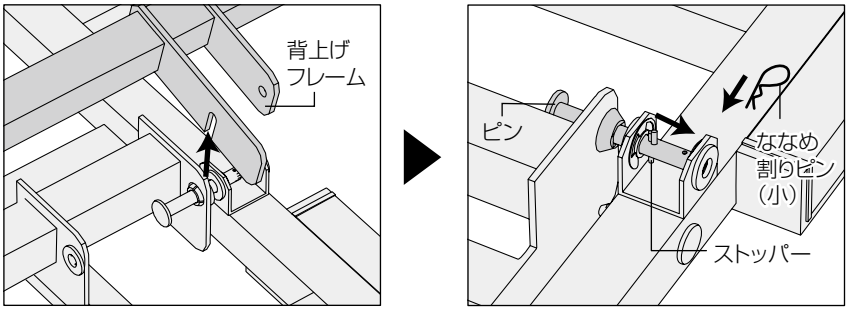
背上げフレームを取り外します。



背上げフレームとフリーフレームを固定している部分のななめ割りピンを外し、ピンを1/3程抜いてください。

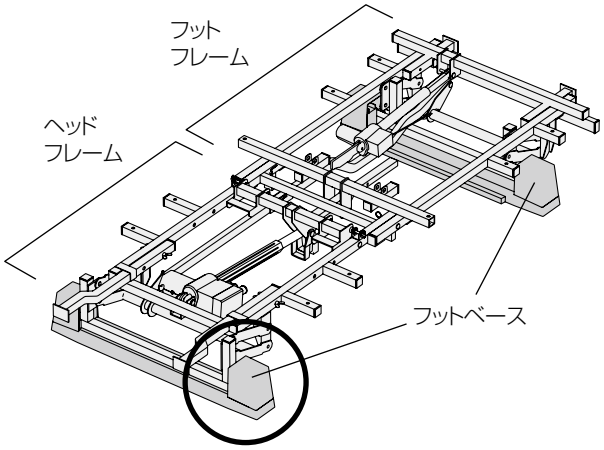
※ピンをすべて抜くとフレームが外れてしまうため、すべて抜けないようにストッパーがついています。

背上げフレームを持ち上げながら作業を行うとピンが抜けやすくなる場合があります。



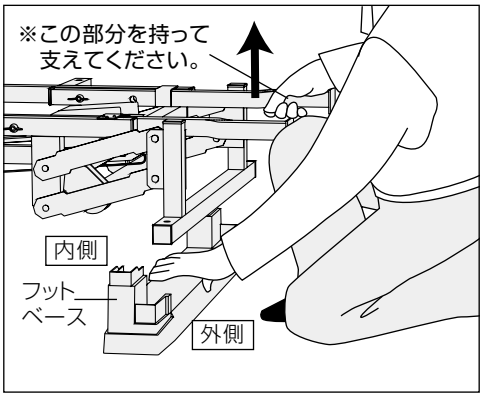
背上げフレームを取り外し、1/3程抜いたピンを元のようにはめ直して、ななめ割りピンで固定します。

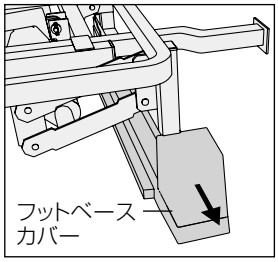
9 フットベースの取り外し



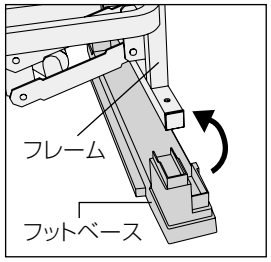
フットベースを取り外します。

フットベースカバーを取り外します。
ボード受けフレームを片手で持ち上げながら、もう片方の手でフットベースを外してください。

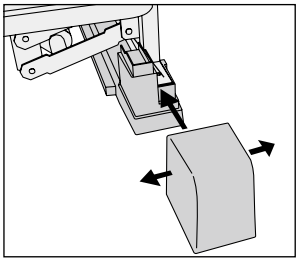




①フットベースカバーを外します。



②フレームを持ち上げます。

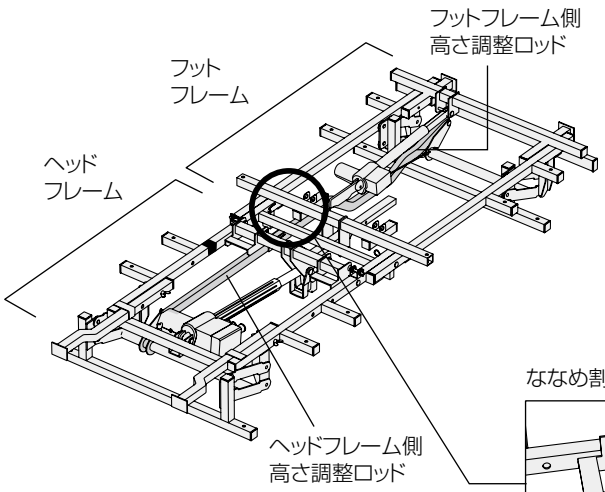


③フットベースにフットベースカバーをかぶせます。

⚠ 警告

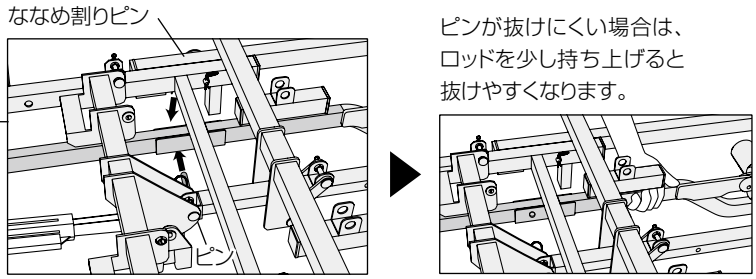
- ●重量物のため、手足をはさまないよう注意して作業を行ってください。
- ●必ずフットベース所定の位置に、フレームを設置してください。

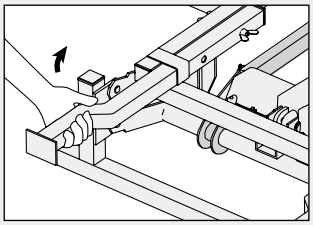
10 高さ調整ロッドの取り外し



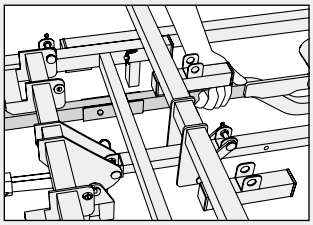
高さ調整ロッドを取り外します。
ベッドの高さが一番低くなっていることを確認してください。
ヘッドフレーム側とフットフレーム側の高さ調整ロッドを接続しているななめ割りピンとピンを外してください。
このとき、ロッドが床に接触し破損する恐れがありますので、ロッドを手で支えながらピンを抜いてください。

抜いたピンは紛失防止のため、フット側のロッドに取り付けてください。



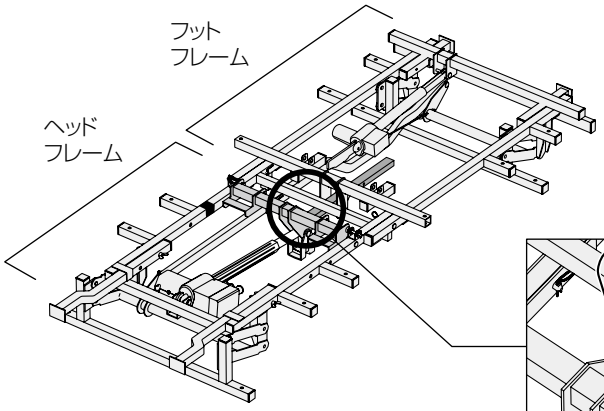


高さ調整ロッドが取り外しにくい場合は、ヘッドフレームを少し持ち上げてください。



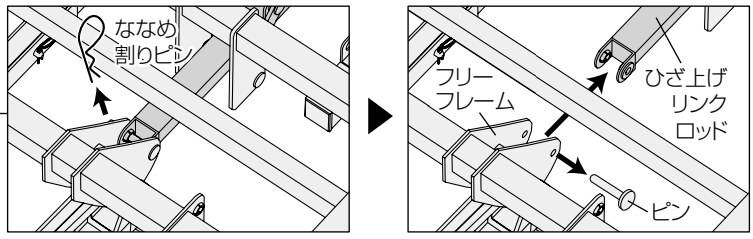
ピンが抜けにくい場合は、高さ調整ロッドを少し持ち上げてください。

11 ひざ上げリンクロッドの取り外し



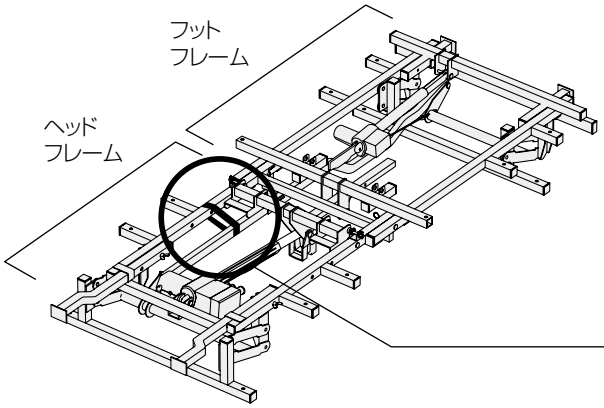
ひざ上げリンクロッドとフリーフレームを取り外します。

ひざ上げリンクロッドとフリーフレームを接続しているななめ割りピンとピンを外してください。
このときロッドが床に接触し破損する恐れがありますので、ロッドを手で支えながらピンを抜いてください。

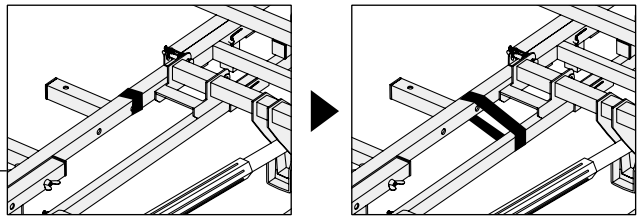


抜いたピンは紛失防止のため、ひざ上げリンクロッドの穴に取り付けてください。

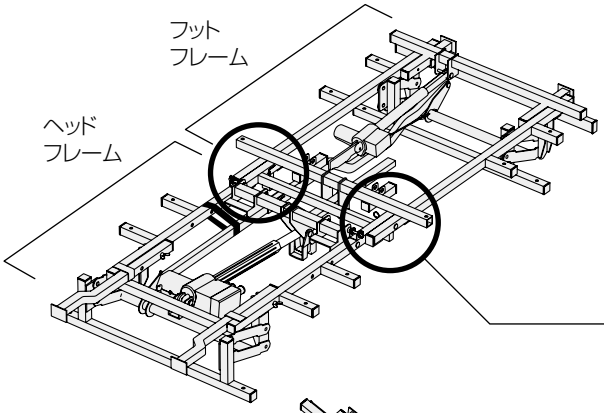
12 固定バンドの取り付け



ヘッドフレーム側の高さ調整ロッドとフレームを固定しているフレーム固定バンドを外してください。
外したフレーム固定バンドは紛失防止のため、フレームに巻きつけてください。

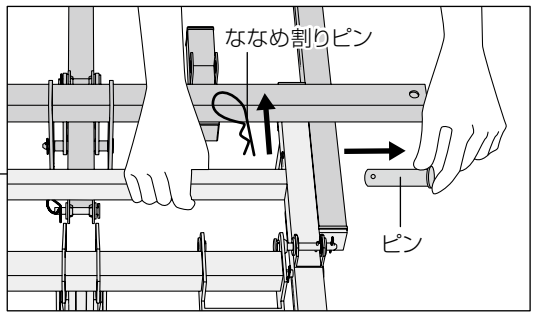


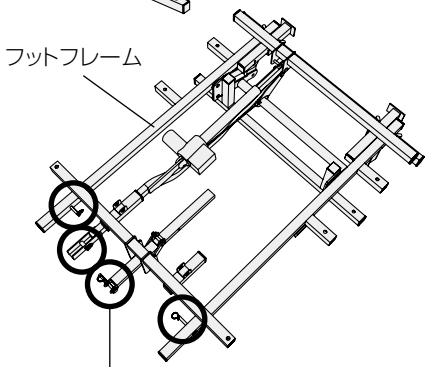
13 ヘッドフレームとフットフレームの取り外し

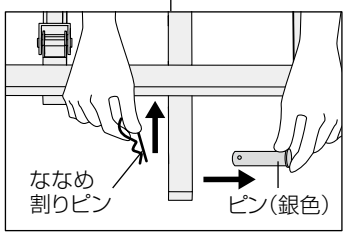


ヘッドフレームとフットフレームを取り外します。

フレームを持ち上げながら、ヘッドフレームとフットフレームを連結しているピン2ヶ所を外してください。

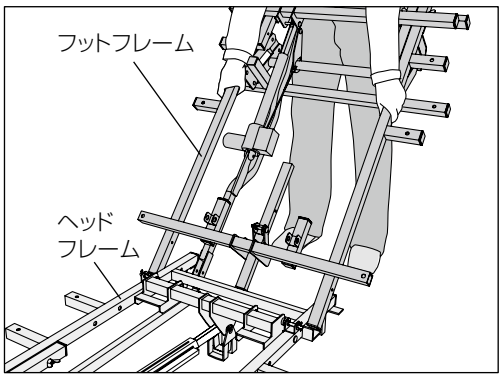






抜いたピンと割りピンは紛失防止のため、フットフレームに取り付けてください。

フットフレームを持ち、上に引き上げて分解してください。左図の手の位置をつかむと持ちやすくなります。



キャスター使用の場合は、この時点で取り外してください。
キャスターの取り外し方法はキャスターセット取扱説明書を参照してください。

⚠ 注意

●樹脂パネルをフレームに取り付けたまま、運搬・運送をしないでください。
樹脂パネルの変形・破損の原因になります。

お手入れ方法

⚠ 警告

●誤操作によるケガを防止するため、必ず電源プラグを抜いてお手入れして下さい。
●フレームに直接水をかけないでください。ショートして感電する恐れがあります。

清拭する場合は、中性洗剤を水で薄め柔らかい布に浸し、よく絞ってから清拭してください。
その後残った洗剤分を水に浸して、よく絞った布で拭き取ってください。
最後に乾いた布で水滴･湿気をしっかり拭き取ってください。

※有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）やスプレータイプの殺虫剤などをベッドに直接噴射しないでください。

フレームの可動部から異音が出る場合は、グリスを塗ってください。

保管方法

●長期にわたりベッドをご使用にならないときは、下記の点にご注意ください。

1.組み上がった状態でベッドを保管する場合

●ベッドは壁に立て掛けたりせず、床に水平のまま保管してください。
●ベッドの高さを最低位置まで下げ、背上げをフラットな状態にしてください。
●ベッドの上にはマットレス以外のものを載せないでください。
●高温、多湿、ほこりの多い場所を避けてください。
●電源プラグをコンセントから抜いて、はさんだり絡んだりしない場所に束ねておいてください。
●取扱説明書を紛失しないよう、いつでも見られる場所に保管してください。

2.分解して保管する場合

※ベッドの分解は販売店にご依頼されることをお勧めします。

●P39～P44の分解の手順に従って分解してください。
※使用を再開する場合は、P30の手順に従って点検を行ってください。

症　状	確　認	処　置
背上げが上がらなくなった 下がらなくなった	コンセントに電気はきていますか?	コンセントに他の電気機器をつけて確認してください。
	電源プラグがアダプターや電源タップ、コンセントに入っていますか?	電源プラグをコンセントに入れてください。
	リモコンのコネクタが外れていませんか?	リモコンのコネクタを取り付けてください。(P22参照)
	フレーム固定バンドがついていませんか?	フレーム固定バンドを外してください。(P16参照)
高さ調整ができない	コンセントに電気はきていますか?	コンセントに他の電気機器をつけて確認してください。
	電源プラグがアダプターや電源タップ、コンセントに入っていますか?	電源プラグをコンセントに入れてください。
	リモコンのロックキーが外れていませんか?	リモコンのロックキーを差し込んでください。(P11参照)
	高さ調整ロッドのピンが取り付けてありますか?	高さ調整ロッドの接続部にピンを取り付けてください。(P17参照)
	リモコンのコネクタが外れていませんか?	リモコンコネクタの向きを合わせて差し込んでください。(P23参照)
	リモコンのコネクタの向きが間違っていませんか?	
	フレーム固定バンドがついていませんか?	フレーム固定バンドを外してください。(P16参照)
HSモデルのみ リモコンランプが点灯していない場合	電源プラグがアダプターや電源タップ、コンセントに入っていますか?	電源プラグをコンセントに入れ、リモコンランプの点灯を確認してください。(P23参照)
	圧迫事故防止センサーに人・物が接触していませんか?	圧迫事故防止センサーに接触している人・物を取り除き、リモコンランプの点灯を確認してください。(P11参照)
	圧迫事故防止センサーのコネクタが外れていませんか?	圧迫事故防止センサーのコネクタを取り付け、リモコンランプの点灯を確認してください。(P24、P25参照)
	リモコンのロックキーが外れていませんか?	リモコンのロックキーを差し込み、リモコンランプの点灯を確認してください。(P11参照)
HSモデルのみ リモコンランプが点灯している場合	一度『あがる』ボタンを押して、安全機能を解除してください。	

このようなときには

症　状	確　認	処　置
ひざが上がらない	ひざ上げリンクロッドのピンが取り付けてありますか?	ひざ上げリンクロッドのピンを取り付けてください。(P17参照)
	フレーム固定バンドがついていませんか?	フレーム固定バンドを外してください。(P16参照)
付属品(サイドガードP、ウイングガード、サイドレールA)の取り付けができない	スライド式サイドレール受けの向きは正しく取り付けられていますか?	スライド式サイドレール受け貼り付けシールの『RH』『LH』表示を確認し、正しく取り付けてください。(P19、P20、P21参照)
付属品(サイドガードP、ウイングガード、サイドレールA)がグラグラして不安定	スライド式サイドレール受けのハンガーフック・L字金具・ストッパープレート・蝶ナットがゆるんでませんか?	スライド式サイドレール受けのハンガーフック・L字金具・ストッパープレート・蝶ナットをしめ直してください。(P20参照)
	スライド式サイドレール受けはいっぱいまで引き出されていますか?	スライド式サイドレール受けをいっぱいまで引き出してください。(P34参照)
	固定ネジがゆるんでいませんか? ※ウイングガードのみ	固定ネジをしめてください。(P34参照) ※ウイングガードのみ
HSモデルのみ リモコンのランプが点灯していない	電源プラグがアダプターや電源タップ、コンセントに入っていますか?	電源プラグをコンセントに入れ、リモコンランプの点灯を確認してください。(P23参照)
	圧迫事故防止センサーに人・物が接触していませんか?	圧迫事故防止センサーに接触している人・物を取り除き、リモコンランプの点灯を確認してください。(P11参照)
	圧迫事故防止センサーのコネクタが外れていませんか?	圧迫事故防止センサーのコネクタを取り付け、リモコンランプの点灯を確認してください。(P24、P25参照)
	リモコンのロックキーが外れていませんか?	リモコンのロックキーを差し込み、リモコンランプの点灯を確認してください。(P11参照)

上記の処置で直らなかった場合、またはその他の症状の場合はお求めの販売店または(株)モルテン 健康用品事業本部までご相談ください。

【お客様窓口】株式会社 モルテン 健康用品事業本部
TEL(082)842-9975

仕 様

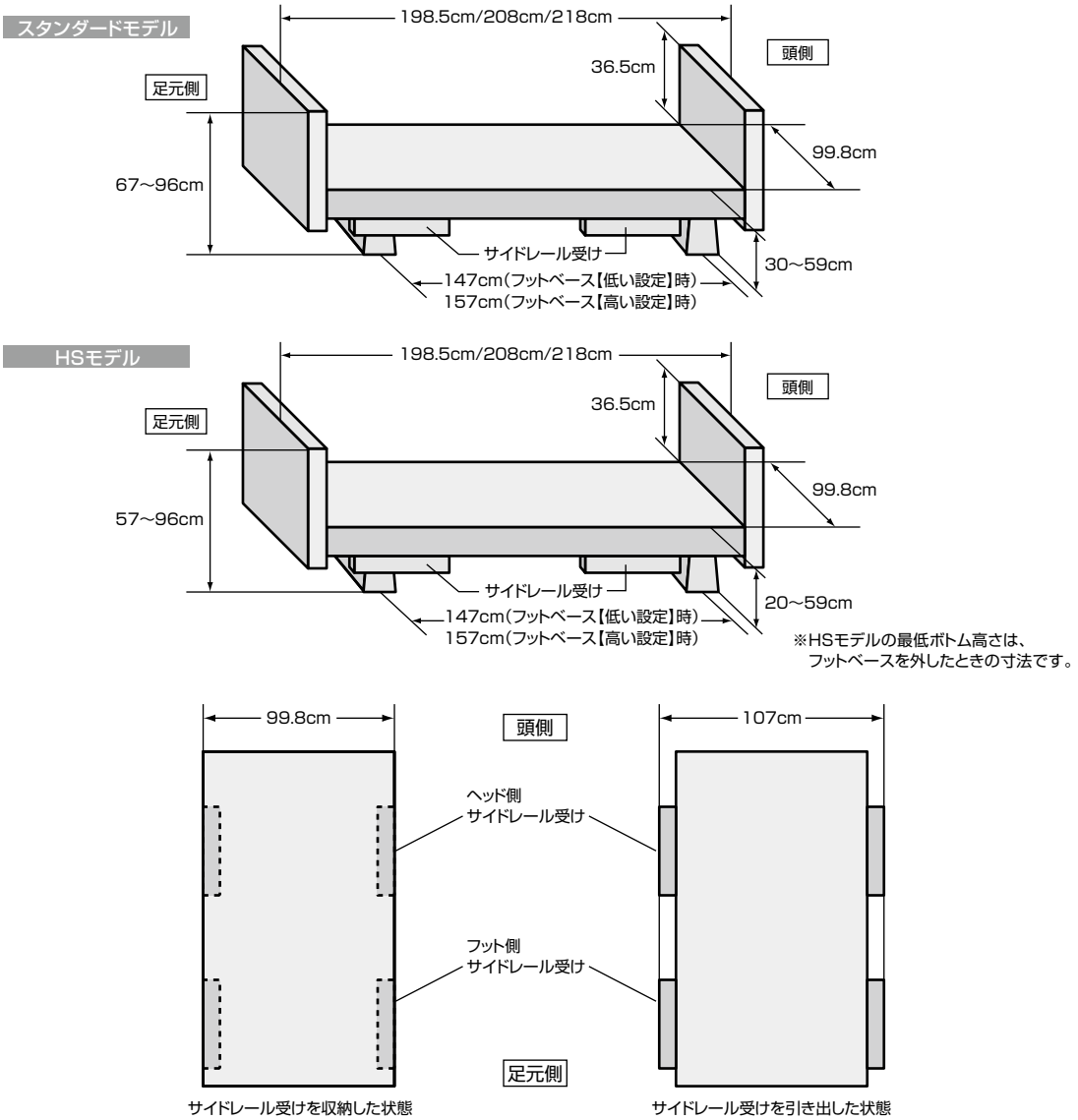
インプレス

品番　MMPR91WN(スタンダードモデル)　MMPRHS91WN(HSモデル)

●外サイズ：幅99.8cm×高さ67cm～95cm×長さ198.5cm/208cm/218cm

●ボトムサイズ：幅91cm×長さ180cm/191cm/205cm

●高さ調整：床面からボトムまで低い設定30cm～52cm、高い設定37cm～59cm(調整量22cm)



●対応するマットレス厚さ：サイドガードP、ウイングガード【ノーマルタイプ】使用状態で14cm以下、【Hタイプ】使用状態で15cm以上20cm以下

※最大マットレス厚さを超える厚さのマットレスを使用した場合、ベッドから転落する恐れがあります。
適合するマットレスについては、P32、P33「マットレスの適合」をご参照ください。

●使用者最大体重：145kg　●安全使用荷重：1700N　●重量：78kg、79kg(HSモデル)

●最大角度：背上げ部=約70度、ひざ上げ部=約22度(背上げ約40度)

●最大背上げ・高さ時間：約25秒

●背上げ・高さ調整 連続操作可能時間：約3分(連続でリモコン操作を行う場合、20分の休止時間が必要です。)

●アクチュエーター：AC100V 50/60Hz 140W DC

●素　材：フレーム=スチール、パネル=ポリプロピレン、ボード=ポリプロピレン

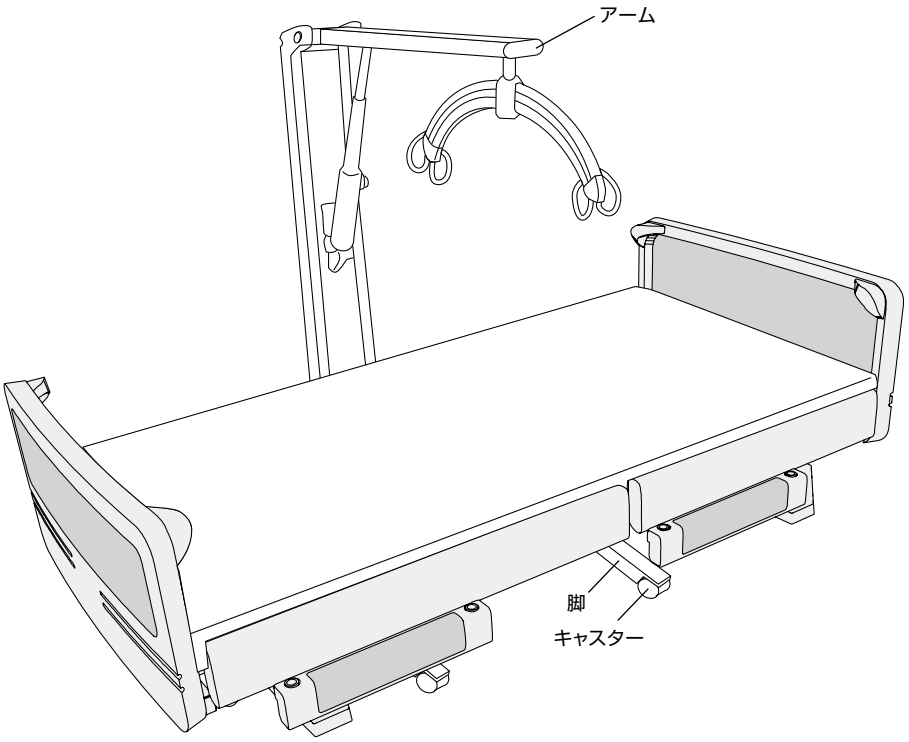
■AS(アクティブセーフティー)モード／電動式ひざ上げ・背上げ・ひざ下げ連動機能

■電動式高さ調整機能　■3段階長さ調整機能(レギュラー・ショート・ロング)　■圧迫事故対策機能(HSモデル)

■1年保証

●介護リフト･サイドテーブル使用時の注意点

床走行式電動介護リフトが使用できます。
※床走行式電動介護リフトに添付されている取扱説明書も必ずお読みください。



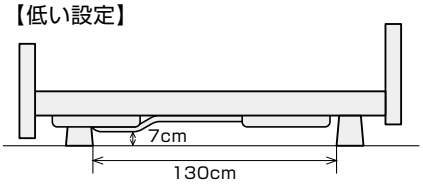
⚠ 警告

- ●ベッドを上げるとき、アームを下げるときは、ベッドとフレームの間にはさまれないように注意してください。はさまれるとケガをする恐れがあります。
- ●ベッドの高さを下げるときは、脚部やキャスターなどにはさまれないように注意してください。はさまれるとケガや破損の恐れがあります。
- ●脚部がベッドの配線コードに引っ掛からないように注意してください。

⚠ 注意

- ●ベッド（インプレス）を低い設定にした場合、ベッドと床面とのすき間が7cmとなります。リフトやサイドテーブルの脚部が幅130cm･高さ7cm以上のものは使用できないので注意してください。
- ●リフトやサイドテーブルを使う場合は、フットベースを外さないでください。
- ●リフトやサイドテーブルの脚部が圧迫事故防止センサーに当たらないように注意して設置してください。

【低い設定】



開発・製造元

株式会社 モルテン
健康用品事業本部
www.molten.co.jp/health
東京　札幌　仙台　名古屋　大阪　広島　福岡
製品他、各種お問い合せは
〒739-1794　広島市安佐北区口田南2-18-12
TEL.082-842-9975
FAX0120-769-123
E-mail:health@molten.co.jp

※ 健康用品事業本部にて
取得しています。

2015.10